

資 料

精神薄弱教科「生活科」新設に伴う各教科の内容の変化 —昭和38年と昭和46年養護学校(精神薄弱教育)小学部・中学部学習指導要領及び資料の比較—

山田 康広・米田 宏樹

本稿では、昭和38年養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編（指導要領）と昭和46年指導要領及び資料の各教科の内容項目について新旧表を作成し、比較・検討を行った。生活科は主に昭和38年の社会・理科・家庭の項目を中心に構成されていたが、身辺・家庭・学校・社会生活を網羅するように、生活に即した内容が充実した。国語や算数では、生活場面での具体的活動で記述された内容項目が減り、教科の知識・技能の習得に関わる記述に純化された。音楽や図画工作、体育も、教科の特色が強調され、事前・事後的活動や態度に関する内容は削除された。しかし、その教科の中にも、生活と関連の強い内容は残存しており、生活科と他教科の内容項目は、互いに関連していた。そのため、実際の指導では、教科別の教育内容の分類による理解と、生活単元学習や日常生活の指導等の指導形態による理解との2重構造において教育課程を捉えることが必要であった。

キー・ワード：生活科、学習指導要領、知的障害

I. はじめに

現在、知的障害教育において、児童生徒の障害の重度化や多様化に伴い、生活単元学習など領域・教科を合わせた指導の実践上の困難が指摘されている（国立特殊教育研究所，2006）。

昭和38（1963）年養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編（以下，38年指導要領）においては、教育内容が教科別に示された。しかし、その内容は通常の教科とは異なり、生活を中心とした視点の精神薄弱教育独自の性格を有する教科が設定された。また、指導方法として、生活単元学習など領域・教科を合わせた指導が規定された。すなわち、38年指導要領は教科別の提示形式をとりながら、生活教育による教育実践を期待したものだったといえる。しかしながら、名古屋（1997）が指摘するように、

その後の実践においては、教科別に指導する実践が多くなった。

その反省から、昭和46（1971）年養護学校（精神薄弱教育）小学部・中学部学習指導要領及び養護学校（精神薄弱教育）小学部・中学部学習指導要領資料（以下，46年指導要領）では、領域・教科を合わせた指導による実践を促進し、生活に即した内容を教育的内容として大きく位置づけるため、教科「生活科」が設定された（小出，2001）。これにより、昭和38年の社会、理科、家庭が廃止され、昭和46年の各教科は、生活、国語、算数、音楽、図画工作、体育の6教科になった。また、名古屋（2004）は、この第1次改訂において、教科別の形式で内容を示した学習指導要領とは別に、生活単元学習などの指導の形態との2重構造において教育課程を捉えることが強調されたと指摘している。

「生活科」に関する批評や解説には、西

(1975) や田中 (1982)、小出 (2001) などがある。西 (1975) や田中 (1982) は、社会、理科、家庭を廃して生活科を設定した理論的根拠のなさや、生活科が教科の概念から異質なものであると批判している。一方、小出 (2001) は、自身が昭和49 (1974) 年養護学校 (精神薄弱教育) 学習指導要領解説の生活科の執筆者である立場から、生活科の設定の経緯やその内容について解説している (経緯については、後述Ⅱ. 1を参照)。これらの主張から、教科の系統性を重視した教科の概念から生活科を批判する立場と、生活に即した内容を重視し、それらの内容が教科と同様に価値がおかれなければならないという生活教育の立場とで、生活科への評価が二分していることがうかがえる。

しかし、上述のように生活科の概念に関する論考は見られるが、このような見解に対して、生活科の新設に伴い46年指導要領がどのように変化したか、内容項目を検討したものは見られない。

そこで本研究では、38年と46年指導要領の内容項目を比較することにより、生活科の新設に伴い、昭和38年の内容項目が実際にどのように昭和46年に整理されたかを明らかにすることを課題とした。生活に即した内容が教育内容としてどのように位置づけられたかを明らかにすることは、現在の領域・教科を合わせた指導の実践に示唆を与えるものと考えられる。

知的障害教育における学習指導要領及び同解説に関する研究には、太田 (2004) や藤原 (2004) などが挙げられる。太田 (2004) は、学習指導要領解説における生活単元学習の定義やその条件の記述の変遷を整理した。藤原 (2004) は、音楽科の内容項目の変遷を整理した。本研究は、太田 (2004) と藤原 (2004) の方法を参考に、対象資料の内容項目に関して新旧表を作成した。新旧表の作成において、必要に応じてKJ法による項目の分類、整理を行った。なお、補足的に昭和41 (1966) 年と昭和49 (1974) 年の同解説も用いた。

なお、本稿において学習指導要領及び資料か

らの引用については、小学部低学年、中学年、高学年を「低」、「中」、「高」と省略し (中学部については「中学部」と記した)、その項目の番号をもって示すこととした。また、本研究は歴史的な研究であり、歴史的用語はそのまま使用することとした。

Ⅱ. 生活科の新設と生活に即した内容の強調

1. 指導要領改訂と生活科新設の経緯

昭和45 (1971) 年、「盲学校、聾学校および養護学校の教育課程の改善について (答申)」において、当時の特殊教育の普及から盲学校、聾学校および養護学校に就学する児童生徒の障害の種類、程度が広範囲に及ぶようになったことに対して、心身に障害を有する児童生徒に対する教育のいっそうの充実のための教育課程の改善が求められた (文部省 [1970] 9)。その中で、精神薄弱者を教育する養護学校の小学部においては、「二歳から六歳程度の精神年齢の児童が大部分を占めている実態にかんがみ、児童の精神発達の度合いに即応するように教科の分類について改めることとし、・・・身近生活の確立と処理、集団への参加などの能力を養うための新しい教科を設け、その名称を『生活』とすること」が定められた (文部省 [1970] 13 - 14)。

教科の分類については、「養護学校対象児童の障害の程度が重度化してきたこと」により、「既存の教科による以外の様式で、教育内容を組織することの必要性」が高まったことが契機となった。その「既存の教科による以外の様式」については、いくつかの案が検討される中、「生活」を新設し、社会、理科、家庭の3教科を廃止することが決定した (文部省 [1974] 50)。

「生活」の内容は、身近生活、家庭生活、学校生活、社会生活の4つの生活領域に区分され、それらの領域において立てられた大項目を整理し、11の分野の項目が設定された (文部省 [1974] 52 - 54)。その11分野は、「基本的生活習慣」、「健康・安全」、「遊び」、「交際」、「役割」、

昭和38年	昭和46年	昭和38年	昭和46年
<p>基本的生活習慣</p> <p>家庭低 (8) 食前に手を洗う。中 (7) 食前には必ず手を洗う。</p> <p>国語低 (2) オ、中 (1) オ、高 (1) ク (あいさつ)</p> <p>家庭低 (6) なるべくこぼさないようにして食べる。</p> <p>低 (9) さじ、はしなどがだいたい使える。中 (5) よくかんで、こぼさないように食べる。中 (8) さじ、はしなどが使える。</p> <p>家庭低 (7) なるべく好ききらいをしないようにする。中 (6) なるべく好ききらいをしない。</p> <p>体育中 (27) 好ききらいをしないで何でも食べるようにする。</p> <p>家庭高 (27) 食事の準備、あとかたづけなどの手伝いをする。</p> <p>家庭低 (10) 食事の途中で遊ばないようにする。中 (9) 行儀よく食べる。高 (6) 作法を守って楽しく食事を食べる。</p> <p>理科高 (6) 食べ物には、いろいろな種類があることを知る。</p> <p>家庭低 (12) 排便のしまつがだいたいできる。低 (13) できるだけ便所をよくさかい。</p> <p>家庭低 (15) 用便後、手を洗う。中 (11) 用便後必ず手を洗う。</p> <p>国語低 (3) ア、中 (2) エ、高 (2) イ (標識)</p> <p>家庭低 (14) 戸を締めて用便をする。中 (10) 便所へはいるとき、ノックをして戸をあけ、きちんと締める。</p> <p>家庭低 (17) ひとりで寝る。</p> <p>家庭低 (18) 寝まきをえて寝る。</p> <p>家庭低 (20) 寝る前に便所へ行く。中 (14) 寝る前や夜中にひとりで便所へ行く。</p> <p>国語低 (2) オ、中 (1) オ、高 (1) ク (あいさつ)</p> <p>家庭低 (16) 早寝・早起きをする。中 (12) 早寝・早起き、ひとりで寝ることができる。</p> <p>家庭低 (13) なるべく自分で寝まきやふとんなどのしまつをする。高 (10) 自分でふとんのあげおろしをする。</p> <p>家庭低 (21) 朝晩、歯をみがく。低 (22) 顔を洗う。中 (15) 朝、晩の歯みがき、洗面を必ずする。高 (11) ていねいに歯みがきや洗面をする。</p> <p>家庭低 (23) 手足がよごれたら洗い、ぬれたらふくようにする。中 (16) 手足がよごれたら洗い、ぬれたらふく。高 (12) 手足をきれいに洗ったりふいたりする。</p> <p>体育低 (16) からだのよこれに気をつけ、手足や顔などを清潔に保つようにする。中 (24) からだのよこれに気をつけ、手足や顔などを清潔に保つ。高 (23) 身体や身の回りの清潔に気をつけるようにする。</p> <p>家庭低 (24) 鼻じりが出たらかむ。中 (17) 鼻じりが出たらすぐかむ。高 (13) 鼻じりが出たら、すぐきれいかむ。</p> <p>家庭中 (18) いつもハンカチ、はな紙などを忘れないようにする。高 (14) ハンカチ、はな紙などを忘れないようにする。</p> <p>家庭高 (17) ふろでからだを洗ったり、ふいたりする。</p> <p>家庭中 (19) 髪をといいたる。洗ったりする。</p> <p>家庭高 (15) 自分で散髪にいったり、髪の手入れをしする。</p> <p>社会低 (8) 皆と一いしょに簡単なあとかたづけをする。</p> <p>家庭低 (27) できるだけ、使ったもののあとかたづけをする。中 (23) 使ったもののあとかたづけをする。</p> <p>家庭低 (1) 洋服、ねまき、シャツなどの、簡単な衣服の着脱をする。中 (1) 衣服の着脱をする。高 (1) 衣服の着脱をきちんとする。</p> <p>家庭低 (2) 脱いだものをだいたいたたむ。中 (2) 脱いだものをたたむ。</p> <p>家庭高 (5) 運動や作業にふさわしい服装をする。</p> <p>家庭高 (2) 下着のとりかえや、自分の衣服のしまつをする。</p> <p>家庭高 (3) ほろびやよこれに注意する。</p> <p>家庭低 (4) はきものがはける。高 (4) はきものをききとんとく。</p> <p>家庭中 (4) くつの左右を区別し、かかとを踏まないで歩く。</p> <p>家庭低 (26) できるだけ、はきものをそろえるようにする。中 (21) はきものをそろえてあがる。</p> <p>社会低 (2) 自分の鉛筆やノート、かばんなどがわかる。</p> <p>社会低 (3) 自分の帽子や洋服、くつなどがわかる。</p> <p>社会低 (13) 帽子やかさ、かっぱ、作業衣などをきめられた場所におく。</p> <p>社会高 (9) 机やいす、戸などを整とんする。</p> <p>家庭高 (20) 自分の持ち物をでるだけ整とんする。</p>	<p>低 (1) 食前に手を洗う。</p> <p>低 (2) 食前食後のあいさつをする。⑦</p> <p>低 (3) はし、さじなどが使え、こぼさないように食べる。</p> <p>低 (4) 好き、きらいをしないで食べる。</p> <p>中 (1) 食卓をふいたり、食器を並べたりなどする。</p> <p>高 (1) 簡単な食事の準備やあとかたづけをする。⑧</p> <p>中 (2) 主食と副食とを取り合わせて食べる。◇①</p> <p>中 (3) 行儀よく食べる。</p> <p>高 (2) 食べ物や調味料の種類がわかる。</p> <p>高 (3) 好ききらいをせずに食べると、からだによいわけがわかる。◇①</p> <p>低 (5) 男女の便所の区別がわかる。◇</p> <p>低 (6) ひとりて用便をたす。</p> <p>低 (7) 用便後、手を洗う。</p> <p>中 (4) 便所の標識がわかる。</p> <p>中 (5) 便所へはいるときはノックをし、戸をしめて用をたす。</p> <p>中 (6) 用便後、服装を整える。◇</p> <p>高 (4) 自分の家や学校以外の便所もひとりて使う。</p> <p>低 (8) 寝まきに替替えて、ひとりで寝る。</p> <p>中 (8) ひとりで寝まきに替替える。</p> <p>低 (9) 寝る前に用便に行く。</p> <p>低 (10) 朝のあいさつや寝る時のあいさつをする。⑦</p> <p>中 (7) きまった時刻に寝起きする。</p> <p>高 (5) 自分のふとんの上げおろしをする。</p> <p>低 (11) 朝晩歯をみがき、洗面をする。</p> <p>高 (6) 歯みがきの必要わけがわかる。◇①</p> <p>低 (12) 手足がよごれたら洗い、ぬれたらふく。</p> <p>低 (13) 鼻じりが出たらかむ。</p> <p>低 (15) いつもハンカチ、はな紙などを持っている。</p> <p>中 (9) 浴槽 (よくそう) にはいる前に、股間 (こかん) や手足などを洗う。</p> <p>中 (10) ひとりで入浴し、自分でからだを洗う。</p> <p>高 (7) 湯かげんを待ってから、浴槽 (そう) にはいる。◇</p> <p>中 (16) ひどて髪をとくす。</p> <p>高 (8) ひどて髪を洗う。</p> <p>高 (17) ひどて髪を散髪に行く。</p> <p>高 (9) 入浴後、用具のあとかたづけなどをする。⑧</p> <p>高 (10) 公衆道徳を守って公衆浴場を利用する。◇⑥</p> <p>高 (11) 石けんを使うわけがわかる。◇①</p> <p>低 (14) 簡単な衣服の着脱をする。</p> <p>中 (11) 脱いだ衣服をたたむ。</p> <p>中 (12) 運動や作業などのときは、きめられた服装をする。</p> <p>高 (12) そで、えりなど、衣服の各部の名称がわかる。◇①</p> <p>高 (13) 自分の衣服の始末をする。</p> <p>高 (14) 衣服のよこれやほろびに気づいて、替替える。</p> <p>高 (15) 寒暖、天候に合わせて衣服を調整する。◇</p> <p>低 (16) 運動くつなどをひとりてはく。</p> <p>中 (13) くつの左右を区別してはく。</p> <p>中 (14) はきものをそろえて上がる。</p> <p>低 (17) 自分の帽子、洋服、くつ、かばんなどがわかる。</p> <p>中 (15) 帽子、洋服、かばん、くつなどをきまった所に置く。</p> <p>高 (16) 自分の持ち物を整とんする。</p>	<p>健康・安全</p> <p>体育高 (27) 発熱、吐きけ、頭痛など、からだの調子の悪いときには、すぐ親や先生に話すようにする。</p> <p>体育中 (28) 外出から帰ったときなどにうがいをする。</p> <p>体育低 (21) 健康診断や予防接種をいやがらずに受けるようにする。中 (25) 健康診断に関心をもちようにする。中 (29) 予防接種をいやがらずに受けるようにする。高 (26) 健康診断のたいせつなことを知り、病気があったら治療を受けるようにする。</p> <p>高 (29) うつる病気とうつらない病気のあることを知り、進んで予防接種を受けるようにする。※体育中 (8) 予防接種の意義を知り、進んで予防接種を受ける。</p> <p>※体育中学 (6) 簡単なけがや生理の処置を自分でする。</p> <p>体育低 (22) 小石やガラス玉、硬貨などを口や耳に入れないようにする。</p> <p>家庭低 (28) 電気器具、ガスのせん、マッチ、刃ものなどの危険物にさわらないようにする。中 (24) 電気器具、ガスのせん、マッチ、刃ものなどの取り扱いの危険なことがわかり、かかってに触れないようにする。</p> <p>高 (21) 家庭内にあるいろいろな危険物の取り扱いに注意し、危険な場合は家族に知らせる。</p> <p>体育低 (24) マッチや刃物など身近にある危険なものなどがわかる。</p> <p>家庭低 (31) 家の内外の危険な場所では遊ばないようにする。中 (26) 家の内外の危険な場所がわかり、また、それに気をつけるようにする。</p> <p>社会低 (15) ブールや階段、マンホール、配電盤、ストープなどの学校内の危険な場所に気をつける。</p> <p>社会低 (16) 道すじや横断歩道、プラントホーム、川、用水池などの通学途上にある危険な場所に気をつける。</p> <p>社会中 (6) 悪い遊びや危険な遊びをしないようにする。</p> <p>体育低 (23) 中 (30) 遊びや運動のとき、おしたり、ついたり、わるふざけをしないようにする。高 (30) あぶない遊びや人に危害を加えるようなことをしないようにする。</p> <p>社会中 (17) 道を歩く、右側を歩く、信号に従うなどの交通規則を守る。</p> <p>社会高 (16) 日常生活に關係の深いいろいろな交通標識を知る。</p> <p>社会高 (17) いろいろな交通規則を正しく守る。</p> <p>遊び</p> <p>社会低 (6) 担任の指導により、友だちと一いしょに鬼遊びや砂遊びをしたり、すべり台をすべったりする遊びなどをする。</p> <p>社会中 (10) 遊び道具などを使うときは順番を守るようにする。</p> <p>社会中 (3) 簡単な遊びなら担任がいなくても自分たちで遊べる。</p> <p>社会中 (4) 簡単な遊びのルールがわかる。</p> <p>体育低 (14) すもう遊びをする。中 (21) 片足すもうなどをする。</p> <p>国語低 (3) エ 絵合わせや簡単なかるた遊びをする。中 (2) カ かるた遊びや文字遊びなどをする。</p> <p>体育低 (23) 綱引きや球入れなどをする。中 (22) 綱引きや球入れなどをする。</p> <p>社会高 (12) 仲間にはいれない友だちも一いしょに遊んでやる。</p> <p>社会高 (11) ルールを守って皆と一いしょに遊ぶ。</p> <p>交際</p> <p>国語低 (2) 力 自分の名まえ、学校や担任の名などを言う。</p> <p>国語低 (2) キ 名まえを呼ばれたときには、はっきりと返事をする。</p> <p>国語中 (1) キ 自分の親などの名まえや住所、学級や学校や担任の名などを言う。高 (1) ケ 自分の住所、氏名、年令などを正しく言う。</p> <p>社会低 (9) 担任の先生や自分の組の友だちがわかる。低 (10) 自分の学校の校長先生がわかる。中 (11) 学校の先生や校務員など關係のある人がわかる。</p>	<p>低 (1) けがをした時は、親や担任に告げる。</p> <p>中 (1) 腹痛、歯痛などを親や先生に告げる。</p> <p>中 (2) 外から帰った時やかぜをひいた時は、うがいをする。</p> <p>高 (1) 友だちがけがをしたり、からだの異常なときは、親や教師に告げる。</p> <p>高 (2) 保健室を利用する。</p> <p>高 (3) 健康診断や予防接種の必要わけがわかる。①④</p> <p>高 (4) へやの換気や採光に注意する。◇</p> <p>高 (5) 生理の時は親や教師に告げ、処置する。④</p> <p>低 (2) 鉛筆のキャップや硬貨などを口や耳に入らない。</p> <p>低 (3) ガスのせん、マッチ、刃物などの危険な物にむやみに触れない。</p> <p>高 (6) ガラスの破片などの危険物を取り除く。</p> <p>高 (7) 電気器具、ガス栓 (せん)、マッチ、刃物などを安全に取り扱うことになれる。</p> <p>低 (4) 注意に従って、家や学校の内外の危険な場所では遊ばない。</p> <p>高 (8) 交通のひんばんな道路、工事場、用水池などの危険な場所では遊ばない。</p> <p>低 (5) 知らない人についていかない。◇</p> <p>中 (3) 物を投げたり、高いところへ登るなど、危険な遊びをしない。</p> <p>中 (4) 階段やストープのそばで悪ふざけをしない。</p> <p>高 (9) 避難の時は、進んで親や先生の指示に従う。◇</p> <p>低 (6) 道路を歩くときは、自動車</p>

<p>昭和38年</p> <p>国語低 (2) オ 身近な人にごく簡単な日常のあいさつをする。中 (1) オ 身近な人に簡単な日常のあいさつをする。高 (1) ク 簡単な日常のあいさつをする。国語低 (2) ク 目の前にあるものについて、担任や友だちなどと話す。国語低 (2) ケ 見たこと、聞いたこと、遊んだことを担任や友だちなどと話す。国語中 (1) コ 身近な経験について、家の人や担任や友だちなどに話す。家庭中 (9) 人の来訪が告げられる。国語高 (1) ス (来客の応待) 国語高 (1) ノ (電話) 社会高 (4) 友だちの過失やあやまちをむやみにとがめないようにする。社会高 (5) あやまちをしたらわびるようにする。国語高 (1) シ 人に物事を頼むとき、ことわるとき、あやまるときなどに適切なことばを使う。社会中 (16) 簡単な約束を守るようにする。</p>	<p>昭和46年</p> <p>低 (3) 身近な人に「おはよう」、「さようなら」などのあいさつをする。⑦ 中 (3) 身近な人に簡単な日常のあいさつをする。⑦ 低 (4) 聞かれば、見たこと、聞いたこと、遊んだことなどを話す。中 (4) 見たこと、聞いたこと、遊んだことを家の人、先生、友だちなどに話す。高 (1) 見たこと、聞いたこと、遊んだことを家の人、先生、友だちなどと話し合う。中 (5) 人の来訪を先生や家の人に告げる。高 (2) 電話や来客があった時は、取り次ぎや簡単な応対をする。高 (3) 友だちのあやまちをむやみにとがめない。高 (4) 「ありがとう」、「ごめんない」などを適切に言う。⑦ 高 (2) 年賀状、礼状などの手紙を出す。◇⑨ 高 (6) 友だちとの約束を守る。</p>	<p>昭和38年</p> <p>社会中 (19) 乗り物の乗り降りは順序を守り、車内で騒いだり、窓から頭や手を出したりしないようにする。社会低 (5) 落とし物を拾ったら届ける。社会低 (21) 公園や遊園地などのきまりを守る。社会高 (20) 公園や遊園地などの公共の施設をたいせつに取り扱う。</p> <p>金銭</p> <p>算数低 (8) 買い物には、お金が必要ことがわかる。国語中 (1) ツ 簡単な買物に必要なことばがわかる。国語高 (1) ソ 簡単な買い物に必要なことばを使う。</p> <p>社会中 (23) きまった額の簡単な品物なら商店に行って買うことができる。算数中 (8) きまった値段の簡単な買い物ができる。社会高 (27) 簡単な買い物ををする。社会高 (28) 定価表が読めて、簡単なおつりのある買い物ができる。社会中 (24) むだ使せず、ほしいものがあるときにがまんする。社会中 (25) お金をたいせつに取り扱う。社会高 (26) 学用品などの値段がだいたいわかる。社会高 (28) ほしい物や必要な物を買うために貯金をすることを知る。</p>	<p>昭和46年</p> <p>中 (5) 順序を守って乗り物の乗り降りをする。中 (7) 落とし物を拾った時は、親や先生に届ける。高 (4) 公園や遊園地などのきまりを守る。高 (5) 火災報知器や非常電話などをいたずらしない。◇ 高 (6) 貴重品や書類に触れたり、持ち出したりしない。◇</p> <p>低 (1) 買い物には、おかねが必要ことがわかる。中 (1) 「これ」、「ください」など、買い物に必要な簡単なことばを使う。高 (1) 「いくら」、「高い」、「安い」、「おつり」など買い物に必要なことばを使う。低 (2) 毎月の諸会費をまちがいなく担任にわたす。◇③ 中 (2) 「10円」、「50円」、「100円」などの貨幣の種類がわかる。◇② 高 (2) 1,000円以下の貨幣や紙幣の種類がわかる。◇② 中 (3) 小額で、きまった額の買い物なら、ひとりである。高 (3) 簡単なおつりのある買い物をする。低 (3) もらったお年玉やこづかいをたいせつにする。中 (4) おかねをたいせつに扱う。高 (4) 学用品などのおよその値段がわかる。高 (5) こづかいを自分で考えて使う。高 (6) 簡単な自動販売機を利用する。◇⑥</p>
<p>役割(低学年は、手伝い・仕事・役割)</p> <p>社会中 (8) 給食の簡単な手伝いやへやのそうじなどを皆で分担し合っている。高 (15) 給食の手伝いや教室内外のそうじなど進んで皆と協力する。社会低 (8) 皆と協力して簡単なあそびをする。家庭低 (27) できるだけ、使ったもののあとかたづけをする。中 (23) 使ったもののあとかたづけをする。社会高 (13) 学芸会や運動会などの学校行事に進んで参加する。社会高 (14) 誕生会や学芸会、運動会などで使ういろいろな物を協同で作る。社会高 (31) 地域の祭りやその他の行事などに関心を持つ。</p> <p>社会中 (9) いろいろな係りの役割がだいたいわかる。社会中 (14) きめられた係りの仕事をきちんとする。社会高 (6) 学級での当番や係りの仕事などを進んでする。社会高 (7) 分担した作業などを最後までやりとげる。</p>	<p>低 (1) 給食のときに、食器を並べるなどの手伝いをする。低 (3) 学習用具や遊び道具などのあとかたづけをする。⑧ 低 (4) 誕生会、遠足、運動会などに参加する。中 (1) 運動会、学芸会などに参加する。高 (1) 運動会や学芸会などで、先生の手伝いをする。中 (3) 誕生会や学級会などで、簡単な役割を果たす。高 (2) 地域の子ども会や祭りのなどの行事に参加する。高 (4) 先生の助けを借りて、誕生会や学級会などで司会などの役割を果たす。低 (2) 牛乳や新聞を持ってくるなどの手伝いをする。③ 低 (5) あいさつの号令かけや黒板ふきなどの係り活動をする。③ 中 (2) 教材配りや給食運びなどの係り活動をする。高 (3) 日直、給食当番、そうじ当番などの係り活動をする。中 (4) 簡単な作業を、みんなで協力して進める。高 (5) 簡単な作業を分担する。</p>	<p>理科低 (2) ウ 木の実や落ち葉を拾って、木の実遊びや葉っぱなどをして、実や葉の色・形・大きさなどに関心をもつ。中 (2) ウ 木の実や落ち葉などを拾い、それらを使って木の実遊びをくふうしたり、草笛つくりや葉っぱなどをして、実・茎・葉の色や形などに気づく。理科低 (2) エ ばった、せみ、かたつむりなどの親しみやすい動物をさがしたり取ったりして、その色や形、運動のしかたなどに気づく。中 (2) エ ばった、せみ、かたつむりなどの親しみやすい動物をさがしたり、取ったりして、その住み場所や活動の様子などに関心をもつ。高 (2) イ 田畑の虫を観察したり、採集したりして、住んでいる場所や活動の様子を知り、また、飼ったりして、それらの虫の生活について興味を深める。ウ 池や小川(海)で魚・虫・貝などのいろいろな動物を観察し、それらが住んでいる場所や活動の様子について興味を深める。理科中 (1) ア 花だんや植木ばちなどに作りやすい草花の種子をまいたり、球根を植えたりして、それらの芽ばえや育ち方に関心をもつ。イ まいたり植えたりした種子や球根がよく育つように世話をする。高 (1) ア 花だんに球根を植えたり、水栽培などをして、花が咲くまでの様子を観察し、その育ち方などに興味や関心を深める。理科低 (4) イ いろいろな機会を通して、土地には山・丘・川・池・海などのあることを知る。中 (4) イ 学校の近くの山・丘・川・池などを観察し、土地には高い所や低い所、水のたまっている所や流れている所などがあることを知る。理科高 (4) オ 太陽は毎日東から出て西にはいることがわかる、これをもとにして東西南北の方位を知る。理科低 (4) ア そのときどきの晴、曇、雨などの天気やわかる。中 (4) ア 天気には、晴、曇、雨、雪などがあつた、また、風の吹く日もあることを知る。高 (4) イ 季節によって暑さや寒さに違いのあることを知る。</p>	<p>低 (1) 草摘み、木の実拾い、落ち葉拾いなどをして遊ぶ。中 (1) 草花、木の実、落ち葉など、摘んだ物、拾った物を使って遊ぶ。低 (2) あり、ちょう、かたつむりなどをさがしたり、見たりして遊ぶ。中 (4) 身近にいる昆虫(こんちゅう)、魚貝などを、見たり取ったりする。高 (2) 身近にいる昆虫(こんちゅう)、魚、小鳥などを飼育し、観察する。中 (2) 草花の球根などを植えて育てる。高 (1) 草花や野菜などを栽培し、観察する。低 (3) 動物園、牧場などで遊ぶ。◇⑥ 中 (3) 身近にいる小動物をかわいがる。◇ 高 (3) 蚊やハエなどの害虫を駆除する。◇</p> <p>低 (4) 公園、野山、川、海などで遊ぶ。低 (5) 「お日さま」、「お月さま」、「お星さま」などがわかる。◇ 中 (6) 太陽、月、星などと昼夜の簡単な関係がわかる。◇ 高 (8) 太陽の出没の方向や月の満ち欠けなどがわかる。低 (6) 晴、雨などの天気やわかる。中 (5) 冬は寒く、夏は暑いなどの季節の特徴がわかる。高 (7) 四季の変化がわかる。高 (5) テレビ、ラジオの天気予報を利用する。◇ 高 (6) 地震や台風などに関心をもつ。◇ 高 (4) かびのはえたものや腐ったものがわかる。</p>
<p>手伝い・仕事(中学年・高学年)</p> <p>国語中 (1) ス 担任からの簡単な伝言を家の人などに伝える。国語高 (1) セ 簡単な伝言なら正しく伝える。家庭中 (22) できるだけ戸のあけ締めに気をつける。高 (19) 戸のあけ締めで戸締りに気をつける。社会中 (8) 給食の簡単な手伝いやへやのそうじなどを皆で分担し合っている。高 (15) 給食の手伝いや教室内外のそうじなど進んで皆と協力する。家庭中 (30) はたき、ほうき、ぞうきんなどを使ってよこれたところをきれいにする。高 (26) はたき、ほうき、ぞうきんなどを使って、そうじをする。</p> <p>社会中 (1) 友達から借りたクレヨンや絵本、道具などをていねいに扱って必ず返す。社会中 (2) 遊び道具や学習用具、そうじ道具、学級文庫の本など、学級の備品を大切に扱う。社会低 (8) 皆と協力して簡単なあそびをする。家庭低 (27) できるだけ、使ったもののあとかたづけをする。中 (23) 使ったもののあとかたづけをする。家庭高 (25) ハンカチ、くつ下などの洗たくや、簡単なボタンつけをする。※中学図画8 身近な器具や用具などの修理ができる。</p>	<p>中 (1) 近所の家や他の教室などへ、頼まれた物を届けたり、取りに行ったりする。高 (1) 近所の家や他の教室などへ伝言に行く。中 (2) はきもの整とんや、窓の開閉などの手伝いをする。中 (3) 簡単なそうじをする。高 (3) きめられた場所のそうじをする。高 (4) そうじ用具、運動用具、図書などの整理整とんをする。高 (2) はがきを買いに行くなどのお使いをする。◇⑨ 中 (4) 草花や飼っている動物の世話の手伝いをする。高 (5) 草花や飼っている動物の世話をする。中 (5) 仕事に使う簡単な道具や器具の扱いになれる。⑤ 高 (9) 手伝いや仕事に使う道具や器具になれる。⑤ 高 (10) 道具や器具をたいせつに扱う。中 (6) 仕事のあとかたづけをする。⑤⑧ 高 (6) ハンカチやくつ下などの洗たくや簡単なボタンつけをする。高 (7) 修理の手伝いをする。④ 高 (8) 短時間ならば、ひとりで留守番をする。</p>	<p>理科中 (1) ア 太陽は毎日東から出て西にはいることがわかる、これをもとにして東西南北の方位を知る。理科低 (4) ア そのときどきの晴、曇、雨などの天気やわかる。中 (4) ア 天気には、晴、曇、雨、雪などがあつた、また、風の吹く日もあることを知る。高 (4) イ 季節によって暑さや寒さに違いのあることを知る。体育低 (20) かびのはえたものや、腐ったものを食べたりしないようにする。理科低 (5) ア 風車を風にあてて回して遊び、そのまわり方を観察する。中 (6) ウ せっけんを水に溶かしてせっけん水を作り、シャボン玉を吹いて、その大きさや色に興味をもち、吹き方をくふうする。理科中 (6) ア 木の実やその他の材料でこまを作り、よく回ろうとくふうして遊ぶ。理科低 (5) ウ 磁石を使った遊びなどをして、磁石のはたらきに関心をもつ。中 (6) エ 棒磁石やU磁石を使って砂鉄を集めたり、くぎなどをつけたりして、磁石のはたらきに関心をもつ。理科高 (7) イ 紙でつぼうや水でつぼうを作り、玉や水がよく飛ぶようくふうする。高 (7) ウ 糸電話を作った遊び、音を伝えたり聞いたりすることを知る。理科高 (7) エ 虫めがねでものを見たり、虫めがねに光をあてて黒い紙が焦がれたりして、虫めがねのはたらきを知る。理科低 (5) エ 水道のせんや電燈のスイッチの扱い方、ドアや窓の開け方や締め方がわかる。中 (6) オ はさみ、小刀、ペンチ、くぎぬき、懐中電燈、吸い上げポンプなどのような身近な生活で使われている簡単な器具や道具のはたらきを知り、その扱いに慣れる。</p>	<p>中 (2) 草花の球根などを植えて育てる。高 (1) 草花や野菜などを栽培し、観察する。低 (3) 動物園、牧場などで遊ぶ。◇⑥ 中 (3) 身近にいる小動物をかわいがる。◇ 高 (3) 蚊やハエなどの害虫を駆除する。◇</p> <p>低 (4) 公園、野山、川、海などで遊ぶ。低 (5) 「お日さま」、「お月さま」、「お星さま」などがわかる。◇ 中 (6) 太陽、月、星などと昼夜の簡単な関係がわかる。◇ 高 (8) 太陽の出没の方向や月の満ち欠けなどがわかる。低 (6) 晴、雨などの天気やわかる。中 (5) 冬は寒く、夏は暑いなどの季節の特徴がわかる。高 (7) 四季の変化がわかる。高 (5) テレビ、ラジオの天気予報を利用する。◇ 高 (6) 地震や台風などに関心をもつ。◇ 高 (4) かびのはえたものや腐ったものがわかる。</p> <p>低 (7) シャボン玉、風車などの遊びをする。</p>
<p>きまり</p> <p>家庭低 (32) だまって遊びにいかないようにする。中 (27) 遊びにいくときは家の人に告げる。高 (23) 外出する時は、家の人に行き先を告げる。社会低 (14) 始業や終業、給食などの合図がだいたいわかる。社会中 (15) 学校の日課にそった行動がだいたいできるようにする。高 (8) 学校の日課にそって、きまりよく行動する。社会低 (12) 上ばきと下ばきを区別したり、ごみをごみ箱に捨てるなどの学級における簡単なきまりを知る。社会低 (4) 他人の物をだまって持っていくかない。社会高 (10) 皆で使う遊び道具や学習用具、そうじ道具や学級文庫の本などの学級の備品を使ったら、正しくもとの位置にもどす。</p>	<p>低 (1) きまった通学路で登下校する。◇⑥ 中 (2) 登下校の時は、道ごとや寄り道をしない。◇⑥ 高 (2) 登下校の時刻を守る。◇⑥ 中 (1) 外出する時は、家の人に行き先を告げる。高 (1) 外出する時は、行き先、用件、おおよその帰宅時刻を家の人に告げる。低 (2) 始業、終業、給食などの合図にしたがう。中 (3) 家庭や学校の日課にそった生活をする。高 (3) 集会や校外学習などの時は、集団行動に必要なきまりを守る。◇⑥ 低 (3) 上ばき、下ばきを区別する。低 (4) ごみはごみ箱に捨てる。中 (6) 遠足などの時は、ごみの始末をする。◇⑥ 低 (5) むやみに他の家や教室にはいらない。◇ 低 (6) 他人の物や学校の物を無断で持っていくかない。中 (4) 学校の図書やスポーツ用具など、使ったらかならず返す。</p>	<p>理科中 (6) ア 木の実やその他の材料でこまを作り、よく回ろうとくふうして遊ぶ。理科低 (5) ウ 磁石を使った遊びなどをして、磁石のはたらきに関心をもつ。中 (6) エ 棒磁石やU磁石を使って砂鉄を集めたり、くぎなどをつけたりして、磁石のはたらきに関心をもつ。理科高 (7) イ 紙でつぼうや水でつぼうを作り、玉や水がよく飛ぶようくふうする。高 (7) ウ 糸電話を作った遊び、音を伝えたり聞いたりすることを知る。理科高 (7) エ 虫めがねでものを見たり、虫めがねに光をあてて黒い紙が焦がれたりして、虫めがねのはたらきを知る。理科低 (5) エ 水道のせんや電燈のスイッチの扱い方、ドアや窓の開け方や締め方がわかる。中 (6) オ はさみ、小刀、ペンチ、くぎぬき、懐中電燈、吸い上げポンプなどのような身近な生活で使われている簡単な器具や道具のはたらきを知り、その扱いに慣れる。</p>	<p>中 (7) 紙飛行機、舟、こまなどを作って遊ぶ。中 (8) 磁石、乾電池などを使って遊ぶ。高 (9) 水鉄砲、糸電話、たこなどを作って遊ぶ。高 (10) 虫めがね、乾電池などを使って遊ぶ。中 (9) 電灯のスイッチ、懐中電灯などの扱いになれる。高 (11) 簡単な電機器具などの扱いになれる。</p>

精神薄弱教科「生活科」新設に伴う各教科の内容の変化

昭和38年	昭和46年
社会のしくみ(低学年・中学年は「社会のしくみ・公共の施設」)	
<p>社会中(20) 見学その他の活動を通して、警察署(交番)、郵便局、消防署、病院、駅、デパートなどで働いている人々を知る。</p> <p>社会高(21) 警察や消防署、郵便局、病院、市役所(町・村役場)などのある場所を知り、それらの施設のはたらきなどがだいたいわかる。</p> <p>社会高(25) 近くの工場などを見学し、そこで作られている物や働いている人々の活動の様子を知る。</p> <p>社会高(29) 遠足や旅行などの機会を通して、その土地の模様や人々の生活の様子に関心をもつ。</p> <p>社会高(30) 新聞やラジオ、テレビなどを通して社会の大きなできごとなどに関心をもつ。</p> <p>社会高(23) 家族の人の職業などを通して、世のなかにはいろいろな職業があることを知る。</p> <p>※社会中学22 祝祭日の意味がだいたいわかる。</p> <p>社会中(22) 近所の商店を見学することを通して、そこで売られている品物を知る。</p> <p>社会高(24) いろいろな商店があることを知り、それらの店で売っている品物がだいたいわかる。</p> <p>公共の施設</p> <p>社会高(22) 知った場所なら、ひとりで切符を買い、乗り物に乗って行くことができる。</p> <p>※数学中学10 簡単なこづかい帳をつけたり、郵便局などで、貯金の出し入れができる。</p>	<p>低(1) いろいろな種類の店があることがわかる。◇</p> <p>中(1) 自分の住んでいる町や村の山、川、海などの様子がわかる。◇</p> <p>高(1) 自分の国の名や、世界のいくつかの国の名がわかる。◇</p> <p>高(2) 都道府県のあることがわかる。◇</p> <p>低(2) 電車やバスに乗る時には、切符や定期券の必要なことがわかる。◇</p> <p>中(4) 日常利用しているバスや電車の切符を、ひとりで買う。◇</p> <p>低(3) 通学のバスや電車に乗せてもらえば、目的地で降りる。◇</p> <p>中(5) 通学のバスや電車をひとりで利用する。◇</p> <p>中(6) 自動車や電車には、人を乗せるもの、荷物を運ぶものなどいろいろな種類のあることがわかる。◇</p> <p>低(4) 「おまわりさん」や「郵便やさん」がわかる。③</p> <p>低(5) 救急車や消防車などがわかる。③</p> <p>中(7) 学校や家の近くの交番がわかる。</p> <p>中(9) 救急車や消防車のはたらきがわかる。</p> <p>高(3) 警察、消防署、郵便局、病院、市役所(町・村役場)などのある場所がわかり、そのおよそのはたらきがわかる。</p> <p>高(8) 生活に必要ないろいろな品物が、工場や農家などで作られていることがわかる。</p> <p>中(2) 身近な社会の行事に関心をもつ。</p> <p>高(5) テレビ、ラジオを通して社会の大きなできごとを知る。</p> <p>中(3) 家の人の職業がわかる。</p> <p>高(6) 家族の人の職業などを通して、世の中にはいろいろな職業があることがわかる。</p> <p>中(8) はがきや切手の意味がわかり、ひとりで投函(とうかん)する。④⑨</p> <p>高(4) 社会の行事や祝祭日などのおよその意味がわかる。④</p> <p>高(7) いろいろな商店で売っているおよその品物がわかる。</p> <p>高(1) 離れた交通機関ならば、ひとりで利用する。</p> <p>高(2) 道がわからなくなった時は、交番でたずねる。⑥</p> <p>高(3) 公園や遊園地を利用する。⑥</p> <p>高(4) はがきや切手の種類がわかって、利用する。⑨</p> <p>高(5) 家の人や先生の助けを借りて、郵便局や銀行で貯金をする。④</p> <p>高(6) 公衆電話の扱いになれる。⑥</p>

◆は削除された項目、▲は他教科に移動した項目、◇は新設された項目であることを示す。
網掛○数字の項目は本稿本文の記述説明参照項目である。
出典 38年指導要領、46年指導要領より作成

「手伝い・仕事」、「きまり」、「金銭」、「自然」、「社会のしくみ」、「公共の施設」であった。

昭和46年生活科の内容項目とそれに対応する昭和38年の各教科の内容項目をTable 1に示した。昭和46年の生活科の内容項目は、ほとんどが昭和38年の社会、理科、家庭、体育の保健の内容項目と対応していた。また、国語、算数の内容項目も含んでいた。

2. 身近生活・基本的生活習慣の内容規定と意味づけ

「基本的生活習慣」は、昭和38年の家庭を中心に、体育の保健、社会における基本的生活習慣に関する内容項目が対応していた。

昭和46年では、高学年において、高(3)「好ききらいをせずに食べると、からだにいいわけがわかる。」のような守るべき生活習慣とそれによってもたらされる結果に関する知識や高

(12)「そで、えりなど、衣服の各部の名称がわかる。」のように通常教育の家庭科の要素を含んだ内容項目が新設された(Table 1の網掛で①がついた項目を参照)。

また一方で、昭和46年において、昭和38年の社会の高(18)「人の迷惑になるような不衛生なことをしないようにする。」や家庭の低(33)「家庭の人が仕事をしているときは、じゃまをしない。」のような、「迷惑をかけないようにする」というような表現内容項目が削除された。

これらは、「基本的生活習慣」などの内容に対する立場の違いが影響したものと考えられる。昭和38年の家庭は通常教育の小学校高学年における家庭科とは性格が異なり、その内容は「普通児であれば、すでに家庭生活で身につけているはずの基本的な生活習慣の形成や、身近生活の処理など」(文部省[1966] 38)であるとされた。一方、昭和46年では、『『生活』の内容が、成人生活のための準備のための、いわゆる“しつけ”的内容で構成されるべきではなく、児童の現在の生活を充実させ、高めるための内容」(文部省[1974] 54)であるという考えであった。

3. 学校・家庭・社会生活場面を想定した内容の追加

昭和46年では、昭和38年に概略的に示された内容項目がより具体的・行動的記述で示し直された。このため、内容項目数が増加している。例えば、昭和38年の社会の高(17)で「いろいろな交通規則を正しく守る。」と概略的に示されていたが、昭和46年では「健康・安全」の中(7)「道路を横断する時は、右左をたしかめ、手をあげてわたる。」など具体的に7項目において示された(Table 1, 網掛②の項目を参照)。また、「金銭」の内容項目の多くは、昭和38年の国語、算数の内容項目が含まれていたが、それらに加え、中(2)「『10円』、『50円』、『100円』などの貨幣の種類がわかる。」や高(2)「1,000円以下の貨幣や紙幣の種類がわかる。」のように貨幣や紙幣の種類の理解に関する内容項目が新設された。

生活科の内容は、学年段階に着目すると、昭和38年の低学年には設定されていなかった中・高学年の内容項目が46年には低学年で設定されたものがあった（Table 1，網掛③の項目を参照）。例えば、昭和38年低学年では係り活動に関する内容項目が見られないが、昭和46年には、手伝い・仕事・役割の低（5）「あいさつの号令かけや黒板けしなどの係り活動をする。」が設定された。また、社会のしくみ・公共の施設の低（1）「いろいろな種類の店があることがわかる。」、低（44）「『おまわりさん』や『郵便屋さん』がわかる。」など、昭和38年では中・高学年にしか示されていなかった内容が、より平易な内容記述の項目として低学年に付け加えられた。

また、昭和38年では中学部にしか示されていなかった内容が、昭和46年小学部生活科の内容に付け加えられた（Table 1，網掛④の項目を参照）。例えば、昭和46年社会のしくみの高（4）「社会の行事や祝祭日などのおよその意味がわかる。」は、昭和38年中学部社会の「22 祝祭日の意味がだいたいわかる。」に対応していた。46年指導要領の改訂において、「『生活』の新設と関係あるなしにかかわらず、その他の各教科の内容において・・・対象児童の障害の重度化が考慮され、内容の程度がいくぶん上げられた」（文部省〔1974〕50）。しかし、上述のように、生活科の項目は、中学部の内容が高学年に、中・高学年の内容が低学年にまで拡大して設定されていた。

また、手伝い・仕事の分野において、中（6）「仕事のあとかたづけをする。」など「仕事」という語句が使われるようになった（Table 1，網掛⑤の項目を参照）。「仕事」という語句の定義は定かではないが、昭和38年には見られなかった。この「仕事」という語句は、社会生活の区分で内容を構想したことから、取り入れたものであると考えられる。

生活科の内容項目における生活場面の範囲を見ると、きまりの低（1）「きまった通学路で登下校する。」のように登下校、高（3）「集会や

校外学習などの時は、集団行動に必要なきまりを守る。」のように集会や校外学習など、学校・家庭・社会生活における場면을例示した項目が増加した（Table 1，網掛⑥の項目を参照）。

昭和38年の国語から生活科に移動したあいさつに関する内容項目は、食事のあいさつ、寝起きのあいさつ、身近な人とのあいさつ（Table 1，網掛⑦の項目を参照）、社会と家庭から生活科に移動したあとかたづけは、食事、入浴、学習道具・遊び道具、仕事のあとかたづけ（Table 1，網掛⑧の項目を参照）と、学校・家庭・社会生活と様々な場面に応じた内容項目に分けて示されていた。また、昭和46年では国語からはがきを書く項目が削除されたが、生活科において、はがきの購入から投函までの一連の項目が新設された（Table 1，網掛⑨の項目を参照）。

生活科の新設の意図には、「いわゆる生活的内容を、教育内容として大きく位置づけ」ること、「各教科や各領域の内容に合わせて授業を行う際の中心的内容を組織しておくことによって、教科別・領域別に内容を分けない指導を充実させること」が挙げられた（小出〔2001〕18）。昭和38年の内容項目との比較における生活科の内容項目の変化は、生活単元学習や日常生活の指導など領域・教科を合わせた指導をするため、身辺・家庭・学校・社会生活における生活経験を網羅するような内容項目を充実させたことによると考えられる。

4. 昭和38年の理科と昭和46年生活科自然分野

昭和46年生活科の自然分野は、昭和38年の理科の内容項目が対応していた。昭和38年での理科低（2）ウ「木の実や落ち葉を拾って、木の実遊びや葉並べなどをして、実や葉の色・形・大きさなどに関心をもつ。」が、昭和46年自然低（1）「草摘み、木の実拾い、落ち葉拾いなどをして遊ぶ。」となった。このように、昭和38年の内容項目に見られた活動から得られる知識や技術、態度に関する記述が削除され、昭和46年では活動内容のみの記述になった（Table 1，

精神薄弱教科「生活科」新設に伴う各教科の内容の変化

自然、昭和46年において削除された昭和38年の記述を下線部で示した)。これは、生活科の内容項目は「児童に経験されるべき活動として表現され」という方針によるものと考えられる(文部省[1974] 55)。しかし、その活動から児童の学ぶ内容が考慮されない場合、形式的な学習になり、「這い回る経験主義」に陥ってしまう危険性も存在すると考えられる。

Ⅲ. 生活科の新設に伴う他教科における内容項目の変化

1. 生活に即した内容の削除と教科の知識・技能への限定

昭和38年と昭和46年の生活科以外の各教科の内容項目をTable 2からTable 6に示した。

昭和38年国語から、あいさつや経験したことを話すこと、買い物に必要なことば、かるた遊びなどの内容項目が生活科に移動した。また、時間割表などを読むこと、日記や記録を書くことの内容項目が削除された。また、昭和38年低(1)エ「絵本などを見て、その内容について話し合う」が、昭和46年低(2)「絵本、紙しばい、劇、幻灯、テレビ、映画などを見て、おもしろかったことを自由に話す。」になったように、表現が単に「話す」に変更され、「話し合う」活動が内容項目の表記からなくなった(Table 2, 網掛①の項目を参照)。これらの変更により、国語科の内容項目の中に生活場面における聞く・話す・読む・書くことを用いた実生活における活動の内容項目が少なくなった。

また、「読むこと、書くこと」で低(6)「いろいろな線や形などをなぞったり、書いたりする。」など書くことに関する意欲や動作が新設された(Table 2, 網掛②の項目を参照)。昭和38年から引き継がれている項目と合わせると、特に「書くこと」の内容は、ひとつひとつの「書く」行為で示された内容項目が多くなった。生活科の新設から、国語科の内容項目は、実生活の活動のまとまりとして示されたものが減り、聞く・話す・書く・読むことそのものの動作単位で示された項目の割合が多くなり、国語

の知識・技能の習得に関する内容に限定されたと考えられる。

算数では、昭和38年の道具の数合わせや買い物などの内容項目が生活科に移動した(Table 3の▲印の項目を参照)。また、昭和38年の中(12)「学習の道具や給食の食器などをひとりひとりにまちがいなく配ることができる。」は削除され、昭和46年に低(3)「物を配ったり組み合わせたりなどして、1対1対応をする。」が新設されたように、具体的に生活における活動として示されていた記述が、削除された。こうした生活科への移動や削除、記述の変更により、算数においても、生活場面における活動で示された内容項目が減った。

昭和38年低(1)「身近にあるいろいろなものを並べたり、比べたり、取りかえっこをしたりする。」、(9)「おもちゃや道具を種類別に分けてしまったり、もとの位置にもどしたりすることができる。」の内容は、昭和46年低(1)「おもちゃや道具などを種類別に分けたり、並べたり、比べたりする。」にまとめられ、数量的な操作活動のみに内容が限定された。さらに、昭和38年、昭和46年の両方に数を数えるという内容項目があるが、昭和46年算数科ではそれに加え、中(1)「具体的なことがらを通して、順番がわかり、順序数を唱える。」が内容項目に新設され、数量概念の内容が重視された。また、昭和38年の算数では、内容項目に「具体的なことがらの取り扱いを通して」など活動を通した学習に関する記述が含まれていたが、昭和46年では図表以外の分野においてその記述が削除、変更されていた(Table 3の下線部を参照)。

昭和46年の音楽では、高(10)「簡単なリズム絵譜を見て、合奏をする。」のような楽譜、図画工作では高(6)「色合いの違い、色の寒暖などがわかり、色の組み合わせを考えて表現する。」のようなデザインや低(10)「自分の作品について話をする。」や中(10)「友だちの作品を見て話し合う。」など鑑賞の内容項目が新設された。これらは通常教育の音楽や図画工作に含まれている内容であり、「精神薄弱」教育に

Table 2 昭和38年と昭和46年の国語の内容項目

	昭和38年	昭和46年	昭和38年	昭和46年
	聞くこと、話すこと（上段：聞くこと、下段：話すこと）		読むこと、書くこと（上段：読むこと、下段：書くこと）	
低	<p>(1) ア 動物、乗り物その他、身近な生活のなかの事物を表わした絵本、写真、模型などを楽しんで見る。</p> <p>(1) イ 友だちといっしょに短い紙しばい、劇、幻燈、放送などをしまいまで見たり聞いたりする。</p> <p>(2) ア 担任や友だちなどの話を聞く。</p> <p>(2) イ 話しかけた人のほうを向いて聞く。（→中）</p> <p>(2) ウ 担任などのさしずを聞いて、できるだけそれとおり行動する。</p> <p>(2) エ 絵本、紙しばい、幻燈などを見ながら話を聞く。</p> <p>(1) ウ 紙しばい、劇、幻燈、映画などを見て、おもしろかったことをことばや動作で表わす。</p> <p>(1) エ 絵本などを見て、その内容について話し合う。①</p> <p>(1) オ 話を聞いたり、絵本などを見て、ごっこ遊びや劇遊びをする。</p> <p>(2) オ 身近な人に、ごく簡単な日常のあいさつをする。▲生活</p> <p>(2) カ 自分の名まえ、学校や担任の名などを言う。▲生活</p> <p>(2) キ 名まえを呼ばれたときには、はっきりと返事をする。▲生活</p> <p>(2) ク 目の前にあるものについて、担任や友だちなどと話す。▲生活</p> <p>(2) ケ 見たこと、聞いたこと、遊んだことを担任や友だちなどと話す。▲生活</p> <p>(2) コ 担任などに簡単な依頼や訴えなどをする。</p>	<p>(1) 身近な生活のなかの事物を表わした絵本、写真、模型、短い紙しばい、劇、幻灯、テレビなどを楽しんで見たり聞いたりする。</p> <p>(4) 担任や友だちなどの話や、さしず、説明をまがいがいい聞きとる。</p> <p>(2) 絵本、紙しばい、劇、幻灯、テレビ、映画などを見て、おもしろかったことを自由に話す。</p> <p>(3) ごっこ遊びや劇遊びのなかで、自由に話したり聞いたりする。</p> <p>(5) 担任などに簡単な依頼や訴えなどをする。</p>	<p>(3) イ 字と絵の違いがわかる。</p> <p>(3) ウ ひらがなや漢字で書かれた自分の名まえがわかる。</p> <p>(3) ア 身近な生活において、しばしば触れる看板、広告、その他の標識などに注意を向ける。</p> <p>(3) エ 絵合わせや簡単なかるた遊びをする。▲生活</p> <p>(3) オ 自分の名まえをわかる程度に書く。</p> <p>(3) カ 鉛筆やクレヨンなどで簡単な絵日記を書く。◆</p>	<p>(1) 図形や絵などの異同がわかる。◇</p> <p>(2) 文字と絵のちがいがわかる。</p> <p>(3) 自分の名まえの文字がわかる。</p> <p>(4) 絵本、テレビなどに出てくる文字に興味をもつ。</p> <p>(5) しばしば触れる看板、広告その他の標識などに注意する。</p> <p>(6) いろいろな線や形などをぞろぞろと、書いたりする。◇②</p>
中	<p>(1) ウ 簡単な放送や録音などを聞くことに慣れる。◆</p> <p>(1) エ 簡単な童話や物語などを皆といっしょに楽しんで聞く。</p> <p>(1) ア 担任や友だちなどの話を注意して聞く。</p> <p>(1) イ 担任などのさしずや説明などを正しく聞き取る。</p> <p>(1) カ 担任などから指示を受けたり、仕事を言いつけられた時には、よく聞いてそれとおり行動する。</p> <p>(1) オ 身近な人に簡単な日常のあいさつをする。▲生活</p> <p>(1) キ 自分の親などの名まえや住所、学級や学校や担任の名などを言う。▲生活</p> <p>(1) ク 担任などに簡単な依頼や希望などを言う。</p> <p>(1) ケ 簡単なことなら、家の人や担任や友だちなどに尋ねたり、答えたりする。</p> <p>(1) コ 身近な経験について、家の人や担任や友だちなどに話す。▲生活</p> <p>(1) サ 皆の前で簡単な話をする。◆</p> <p>(1) シ 聞き手のほうを向いて、なるべく気おくれしないで話す。◆</p> <p>(1) ス 担任からの簡単な伝言を家の人などに伝える。</p> <p>(1) セ 簡単な紙しばい、幻燈、劇、映画、放送などを見たり聞いたりして、おもしろかったことなどを話す。◆</p> <p>(1) ソ 友だちといっしょに、簡単なせりふのある劇をする。</p> <p>(1) タ なるべく正しい話しかたや発音で話す。</p> <p>(1) チ 身近な生活における簡単なきまりや約束ごとなどについての意味がわかる。◆</p> <p>(1) ツ 簡単な買物に必要なことばがわかる。▲生活</p>	<p>(1) 簡単な童話、物語、放送、録音などを皆といっしょに楽しんで聞く。</p> <p>(3) 話し手のほうを見て注意して聞く。</p> <p>(2) 担任などのさしずや説明を正しく聞いて行動する。</p> <p>(5) 話し合いの時など、相手の話を終わりで静かに聞く。</p> <p>(4) 簡単な伝言をする。</p> <p>(6) 友だちといっしょに、簡単なせりふのある劇をする。</p> <p>(7) 幼児語と正しいことばのちがいに気づく。◇</p> <p>(8) まちがった発音と正しい発音のちがいに気づく。</p>	<p>(2) エ 日常生活において、しばしば触れる看板、広告、その他の標識などの意味がわかる。</p> <p>(2) イ ひらがなや簡単な漢字を読む。</p> <p>(2) オ 日常生活において、しばしば使われるかたかな書きのことばを読む。（→高）</p> <p>(2) ア 絵本や簡単な紙しばい、幻燈などを見たり、聞いたりして、その内容のあらましがわかる。</p> <p>(2) ウ 漢字で書かれた家族、友だち、担任などの名まえや学校名がわかる。▲生活</p> <p>(2) カ かるた遊びや文字遊びなどをする。▲生活</p> <p>(2) ク 読めるようになった文字を使って表わしたことばを書写する。</p> <p>(2) キ ひらがなや漢字で自分の名まえを書く。（→高）</p> <p>(2) ケ 絵日記を書く。◆</p>	<p>(1) 絵本などの文字に関心をもち読もうとする。</p> <p>(2) しばしば触れる看板、広告その他の標識などについての関心を高める。</p> <p>(3) 身近な生活のなかの事物などを表わした、ひらがなで書かれた簡単な語句を読む。</p> <p>(4) 絵本や簡単な紙しばいや幻燈などを見たり聞いたりして、その内容のあらましがわかり、絵本などに興味をもつ。</p> <p>(5) 文字を書くことに興味をもつ。◇②</p> <p>(6) ひらがなの簡単な語句を見て書き写す。</p> <p>(7) なるべく正しい姿勢で書く。◇②</p> <p>(8) 鉛筆の持ち方に注意して書く。◇②</p>
高	<p>(1) ウ 簡単な話なら、聞いてそのあらましがわかる。</p> <p>(1) エ 簡単な放送や録音などを聞く。◆</p> <p>(1) オ 童話や物語などを皆といっしょに楽しんで聞く。</p> <p>(1) ア 人の話を注意して聞く。</p> <p>(1) イ 人の話を終わりで聞く。（→中）</p> <p>(1) カ 聞きたい時やわからないときは聞き返す。</p> <p>(1) キ 担任などのさしずや説明を正しく聞き取って行動する。（→中）</p> <p>(1) ツ 映画、劇、放送などを見たり、聞いたりして、その内容について話し合う。①</p> <p>(1) テ 見たり、聞いたりした映画、劇、放送などの内容について説明する。◆</p> <p>(1) コ わからないことを担任や友だちなどに進んで尋ねる。◆</p> <p>(1) ク 簡単な日常のあいさつをする。▲生活</p> <p>(1) ケ 自分の住所、氏名、年齢などを正しく言う。▲生活</p> <p>(1) セ 簡単な伝言なら正しく伝える。</p> <p>(1) ス 来客があった場合に取り次ぎや簡単な応待をする。▲生活</p> <p>(1) ナ 学級会などで進んで話し合いをする。①</p> <p>(1) ト 相手のいうことをよく聞いて話し合いをする。◆①</p> <p>(1) サ 人から物事を聞かれたときには、はっきり答える。◆</p> <p>(1) ネ 皆といっしょに楽しく簡単な劇などをする。</p> <p>(1) ス なるべく正しい話し方や発音で、適当な速さや大きさの声で話す。</p> <p>(1) ニ 必要な時に方言や乱暴なことばなどを使わないで話す。</p> <p>(1) シ 人に物事を頼むとき、ことわるとき、あやまるときなどに適切なことばを使う。▲生活</p> <p>(1) ソ 簡単な買物に必要なことばを使う。▲生活</p> <p>(1) タ 家の人や担任、友だちなどにしたり、聞いたりしたことを、できるだけ順序よく話す。▲生活</p> <p>(1) チ 皆の前で自然な態度で話す。◆</p> <p>(1) ノ 簡単なことなら電話をかけたり、聞いたりする。▲生活</p>	<p>(1) 担任などの説明、友だちの話、簡単な放送、録音などを聞いて、ことばのあらましがわかる。</p> <p>(2) 話を終わりで注意して聞いたり、わからないときには聞き返したりする。</p> <p>(3) 先生や家の人などに、要件を落とさずに、簡単に伝言をする。</p> <p>(4) 話し合いや学級会などで、聞き手のほうを向いて、はっきりと話す。</p> <p>(5) 友だちといっしょに、簡単な劇などをする。</p> <p>(6) なるべく正しい発音で話す。</p> <p>(7) 必要なときには、ていねいなことばで話す。</p>	<p>(2) イ 日常生活において、しばしば触れる看板、広告その他の標識、立て札、掲示などの意味がわかる。</p> <p>(2) ウ ひらがなや漢字で書かれた語句や短い文を読む。</p> <p>(2) ア やさしい読み物を読むことに興味をもつ。</p> <p>(2) エ 時間割や日課表などを読む。◆</p> <p>(2) カ 日付けや曜日などを正しく書く。◆</p> <p>(2) キ ひらがなや簡単な漢字を書く。</p> <p>(2) ク 日常生活において、しばしば使われるかたかなで書き表わすことばを書く。</p> <p>(2) オ 自分の名まえや住所をはっきり書く。</p> <p>(2) ケ 簡単に短い文などを書写する。</p> <p>(2) コ 簡単な記録などを書く。◆</p> <p>(2) サ はがき程度の簡単な通信文や日記などを書く。◆</p>	<p>(1) しばしば触れる看板、広告、その他の標識、立て札、掲示などの意味がわかる。</p> <p>(2) ひらがなや、よく使われる簡単な漢字やかたかなで書かれた語句や短い文を読む。</p> <p>(3) 絵本や、やさしい読み物を読むことに興味をもつ。</p> <p>(4) 進んで文字を書くこととする。◇②</p> <p>(5) ひらがなで語句や短い文を書く。</p> <p>(6) 自分の名まえなどを漢字で書く。</p>

◆は削除された項目、▲は他教科に移動した項目、◇は新設された項目であることを示す。（→中）がついている昭和38年の項目は、昭和46年では中学年であることを表す。

網掛○数字の項目は本稿本文の記述説明参照項目である。出典 38年指導要領、46年指導要領より作成

精神薄弱教科「生活科」新設に伴う各教科の内容の変化

Table 3 昭和38年と昭和46年の算数の内容項目

	昭和38年	昭和46年	昭和38年	昭和46年
	数と計算		図形と図表	
低	(1) 身近にあるいろいろなものを並べたり、比べたり、取りかえっこをしたりする。 (9) おもちゃや道具を種類別に分けてしまったり、もとの位置にもどしたりすることができる。 (2) 具体的なもので多い、少ない、大きい、小さいなどがわかる。	(1) おもちゃや道具などを種類別に分けたり、並べたり、比べたりする。 (2) 数量の大小などを比べ多い少ない、大きい、小さいなどに気づく。	(4) 具体的な経験を通して、丸、三角、四角などの図形の区別がわかり、名称が言える。 (3) 具体的なことがらの取り扱いを通して、上や下、前や後などがわかる。 (5) 具体的なことがらの取り扱いを通して、○、×などの記号の意味がわかる。	(4) 物の形について興味や関心をもち、丸、四角などの特徴に気づく。 (5) 上や下、前や後ろなどがわかる。 (6) 遊びや生活表などで使う○、×の記号の意味がわかる。
中	(1) 身近にあるいろいろなものを数えたり、それを数字に書いたりする。 (6) 具体的なことがらのなかで、加える必要のあることがわかる。◆ (7) 具体的なことがらのなかで、余ったり、足りなかったりすることがわかる。◆	(1) 具体的なことがらを通して、順番がわかり、順序数を唱える。◇ (2) 身近にあるいろいろなものを数えたり、数字を読んだり書いたりする。 (3) 具体的なことがらを通して、必要に応じてものを加えたり、減らしたりする。◇	(9) 丸、三角、四角などがほしい書ける。 (3) 具体的なことがらを通して右や左がわかる。 (10) 身近な生活のなかで使われている○、×などの表がわかる。	(5) 丸、三角、四角などの形がわかって、名称が言える。 (6) 自分のからだについて、右、左がわかる。 (7) 身近な生活のなかで使われている○、×などの表がわかる。
高	(1) 具体的なことがらの扱いのなかで、やや広い範囲の数を数えたり、読んだり、書いたりする。 (2) 簡単な加法や減法を用いる場合について知り、初歩的な計算ができる。 (3) そろばんのしくみがわかり、数をおいたり、読んだりする。◆ (4) 具体的なことがらの扱いのなかで、同じ種類のものを集めたり、まとめて数えたり、同じように分けたりする。	(1) やや広い範囲の数を数えたり、読んだり、書いたりする。 (2) 簡単な加法や減法を用いる場合がわかり、初歩的な計算をする。 (3) まとめて数えたり等分したりする。	(10) 丸、三角、四角、長四角などがわかり、それらがかけられる。 (9) 簡単な生活の処理を、○、×などの表で表わす。	(7) 丸、三角、四角、長四角などがわかり、それらが書ける。 (8) 簡単な生活の処理を、○、×などの表で表わす。 買い物
	量と測定		買い物	
低	(6) 朝、昼、晩がわかる。◆ (7) 自分の年がわかる。◆	(3) 物を配ったり組み合わせたりなどして、1対1の対応をする。◇ (4) 長い、短い、広い、狭い、重い、軽いなどがわかる。	(8) 買い物には、お金が必要ことがわかる。▲生活 (8) きまった値段の簡単な買い物ができる。▲生活	
中	(2) 具体的な経験を通して長い、短い、広い、狭い、軽い、重いなどがわかる。 (4) カレンダーなどに親しみ、日付けや曜日がわかる。(→高) (5) 簡単な場合に、時刻がだいたいわかる。(→高) (11) 道具などをもの数に合わせたり、もとの位置にかたづけたりすることができる。▲生活 (12) 学習の道具や給食の食器などをひとりひとりにまちがいなく配ることができる。◆			
高	(5) 身近にある具体的なものを比べることを通して、長さや重さを表わす単位やそれをはかる道具のあることがわかる。 (6) 具体的な生活と結びつけて、だいたいの時刻や午前・午後の区別がわかる。◆ (7) 今日は×月×日であるかがわかる。	(4) 長さや重さを表わす単位やそれをはかる道具のあることがわかる。 (5) 時計でだいたいの時刻がわかる。 (6) カレンダーを見て、日付けや曜日がわかる。	(8) 定価表が読めて、簡単なおつりのある買い物などができる。▲生活	

◆は削除された項目、▲は他教科に移動した項目、◇は新設された項目であることを示す。(→中)がついている昭和38年の項目は、昭和46年では中学年であることを表す。また、記述の変更部分に下線を引いた。出典 38年指導要領、46年指導要領より作成

において音楽や図画工作教育が拡張された。また、昭和38年体育科において大まかな競技名で内容が示されていたのに対し、昭和46年体育科ではそれぞれ競技の具体的な運動や動作で内容が示されていた。

一方、昭和46年の音楽や図画工作、体育では学習活動に事前・事後的な活動や態度に関する内容項目が削除された（Table 4、Table 5、Table 6の◆印の削除項目を参照）。例えば、昭和38年の音楽の中（3）エ「楽器をていねいに扱う。」、図画工作の中（2）「造形活動のための準備やあとかたづけをする。」、体育の高（31）「運動器具の破損に注意し、危険が起こらないようにする」などが削除された。昭和46年の生活科にこれらの習慣的な活動に関連した内容項目が存在したことにより削除されたと考えられる。

昭和38年図画工作においても、中（11）のように図画工作の知識の習得に関して「造形活動を通して」という記述があり、活動を通した学習が示されていたが、昭和46年ではその記述が削除されていた。また、昭和38年体育科では、内容の配列において、特に高（20）から（22）に運動会の競技がまとめて示されていた。これは、運動会を行事単位とすることが想定されていたと考えられる。しかし、昭和46年ではそれらの項目は、競技別の大項目の中に整理され、一部項目が生活科に移動した（Table 6網掛の項目を参照）。

生活科以外の教科は、その教科の知識・技能の習得に関する内容に限定された。国語や算数では、生活場面における活動を示した項目が、音楽や図画工作、体育では、それらの活動の事前・事後的な活動や関連した活動の内容は生活

Table 4 昭和38年と昭和46年の音楽の内容項目

昭和38年		昭和46年	
聞くこと		器楽	
低	(1) イ よい音楽が流れているなかで遊んだり、休息したりする。 (1) ア 自由にからだを動かしながら聞く。 (1) エ 先生の歌や演奏を聞く。 (1) ウ 紙しばいや人形しばいなどを見ながら聞く。	低	(5) ウ 簡単な楽器などで音あて遊びをする。 (3) ア いろいろなリズム楽器を自由に打ったり、簡単な一音笛を自由に吹いたりする。 (3) ウ リズムカルな音楽を聞いたり、歌を歌いながらリズム楽器を打つ。 (3) イ リズム楽器や笛の名まえを知る。◆
	(1) ア 自由に身体反応をしながら聞く。 (1) イ ラジオや蓄音器等のまわりに集まって聞く。 (1) ウ 描写音楽などに興味をもつ。 (1) エ 先生や友だちの歌や演奏をよここんで聞く。		(4) 太鼓、カスタネット、鈴、コップなどで、音あて遊びをする。 (9) 行進曲や描写音楽などのレコード演奏に合わせて、太鼓、タンブリン、カスタネット、水笛などの自由演奏をする。 (10) 先生が演奏するオルガンやアコーディオンなどに合わせて、自由にハーモニカを吹く。 (4) ハーモニカ、木琴、鉄琴、トライアングル、シンバルなどの音あて遊びをする。
	(1) ア よい音楽を静かに聞く。 (1) エ 聞きたい音楽をレコードやラジオなどから選んで聞く。 (1) ウ 描写音楽などを聞いて場面や情景を想像する。 (1) オ 先生や友だちの歌や演奏を静かに聞く。 (1) イ よい音楽を皆といっしょに聞く。		(5) ウ 身近にある楽器の音色をだいたい聞きわけ。 (3) ア ハーモニカ、木琴、オルガンなどに親しみ、初歩的な奏法を知る。 (3) イ 身近にある楽器の名まえを知る。◆ (3) ウ 簡単な音楽に合わせて、皆といっしょにリズム楽器を打つ。 (3) エ 楽器をていねいに扱う。◆
からだを動かす		高	
低	(2) ア リズムカルな音楽を聞いて手・足を自由に動かす。 (2) イ 音楽を聞いてとぶ、歩く、かけあしする、手を上げるなどの簡単な運動をする。 (2) エ 動物、乗り物、風や雨などの動きを表わした音楽を聞いて、それらをからだの動きで表現する。 (2) ウ 拍手をしながら、また、打楽器をたたきながら歩く。	低	(6) 先生の拍子打ちやリズム打ちを模倣する。◇ (7) ハーモニカ、一音笛、木琴、鉄琴、オルガン、けん盤ハーモニカ、アコーディオンなどの楽器に親しみ、初歩的な奏法を知るとともに、簡単な旋律のさぐりぶきやさぐりぶきをする。 (8) いろいろな打楽器や旋律楽器を使って、簡単な曲の合奏をする。 (9) ピアノやレコードなどによる演奏に合わせて、合奏や部分奏をする。 (10) 簡単なリズム絵譜を見て、合奏をする。◇
	(2) ア 簡単な音楽に合わせて、手足を自由に動かす。 (2) イ 手や足を音楽に合わせてリズムカルに動かす。 (2) ウ 音楽に合わせて手と足をいっしょに動かす。 (2) エ 音楽に合わせて模倣遊びをする。		(3) ア 木琴やハーモニカ、オルガンなどを使って、簡単な歌曲のさぐりぶき、さぐり吹きをする。
	(2) ア ゆるやかな速さや静かな曲に合わせて、からだを自由に動かす。 (2) イ 音楽に合わせて、やや複雑な手、足の運動をする。 (2) ウ 簡単なフォークダンスをする。◆ (2) エ 音楽を聞いて、自由な身体表現をする。		(3) ア 木琴やハーモニカ、オルガンなどを使って、簡単な歌曲のさぐりぶき、さぐり吹きをする。
音を聞きわけ		歌うこと	
低	(5) ア 音の強弱や速い、おそいがわかる。◆ (5) イ 集まれ、立て、すわれなどの音による合い図に合わせて動作をする。▲→体育	低	(4) ア 知っている歌を元気に歌う。 (4) イ 先生が歌う簡単な歌曲をまねて歌う。 (4) ウ 皆といっしょに歌ったり、ひとりて歌ったりする。 (4) エ 胸を張って口を大きく開いて歌う。
	(5) ア 音の強弱や速い、おそいに敏感に反応し、音の高い、低いがわかる。◆ (5) イ 集まれ、立て、すわれなどの合い図の音にびんしょうに反応する。▲→体育		(11) 大きな声で、のびのびと楽しく歌う。
	(5) ア 和音を聞いてきめられた動作をする。◆ (5) イ 身近な生活のなかにあるいろいろな音に注意を向ける。◆		(10) 知っている歌のレコードに合わせて歌う。 (11) みんなといっしょに歌ったり、ひとりで歌ったりする。 (12) やさしい歌詞なら、まちがえないで歌う。 (13) 先生の歌う簡単な歌を、まねて歌う。
音の聞きわけ		高	
中	(5) ア 音の強弱や速い、おそいに敏感に反応し、音の高い、低いがわかる。◆ (5) イ 集まれ、立て、すわれなどの合い図の音にびんしょうに反応する。▲→体育	中	(4) ウ 伴奏に合わせて、皆といっしょに歌ったり、ひとりで歌ったりする。
	(5) ア 和音を聞いてきめられた動作をする。◆ (5) イ 身近な生活のなかにあるいろいろな音に注意を向ける。◆		(4) イ 先生の歌い方や口もとに注意し、それをまねて歌う。 (4) ア 習った歌や、好きな歌のリズムや発音をしだいに正しくする。 (4) エ どなったり、小声すぎたりしないように歌う。
	(5) ア 和音を聞いてきめられた動作をする。◆ (5) イ 身近な生活のなかにあるいろいろな音に注意を向ける。◆		(11) どなったり小声すぎたりしないよう、できるだけ正しく歌う。 (12) 簡単な歌の内容を理解して歌う。
音の聞きわけ		高	
高	(5) ア 音の強弱や速い、おそいがわかる。◆ (5) イ 集まれ、立て、すわれなどの音による合い図に合わせて動作をする。▲→体育	高	(4) ウ 簡単な歌の内容を理解して歌う。 (4) ア 知っている歌、好きな歌をはっきりした発音と正しいリズムで歌い、音程もできるだけ整えるようにする。 (4) イ 先生の歌う歌曲を模倣して正しく歌う。 (4) エ 皆と声をそろえて歌う。
	(5) ア 和音を聞いてきめられた動作をする。◆ (5) イ 身近な生活のなかにあるいろいろな音に注意を向ける。◆		
	(5) ア 和音を聞いてきめられた動作をする。◆ (5) イ 身近な生活のなかにあるいろいろな音に注意を向ける。◆		

◆は削除された項目、▲は他教科に移動した項目、◇は新設された項目であることを示す。出典 38年指導要領、46年指導要領より作成

科へ移動、または削除された。

2. 教科の内容と生活に即した内容の関連性

しかし、そのような傾向がありながらも、昭和46年の国語、算数には生活と関連の強い分野は、存在した。例えば、国語の「聞くこと、話すこと」では、放送を聞くことや伝言、話し合

いや学級会など、「聞く・話す」のひとつひとつの動作単位で内容項目が示されていた。しかし、これらの項目を実践する場面は、実際の生活場面であることが考えられる。算数では、図表などの項目では昭和38年の時には「具体的なことがらの取り扱いを通して」という記述が昭

精神薄弱教科「生活科」新設に伴う各教科の内容の変化

Table 5 昭和38年と昭和46年の図画工作の内容項目

	昭和38年	昭和46年	昭和38年	昭和46年
	造形活動		造形に関する知識・技能	
低	(2) 鉛筆、クレヨン、パス類、水彩の具などでかいたり、塗ったりする。 (4) 粘土をのぼしたり、丸めたり、平らにしたり、また、ごく簡単な形を作ったりする。 (5) ひもにビーズ類を通す。◆ (6) 自然物をできるだけじょうずに並べたり、そろえたり、重ねたりする。 (7) いろいろな積み木で自由にものの形を作る。◆ (3) 色や形を考えて、はさみで画用紙や色紙などを切ったり、それをのりではったりする。	(1) クレヨン、パス類や絵の具などを使ってかく。 (2) 身近なものをつかい、その形を生かして、押ししたり、こすり出したりして版画にする。◇ (3) 粘土をちぎったり、こねたり、たいたたり、のぼしたり、丸めたり、平らにしたりして、ごく簡単な形を作る。 (4) 粘土遊びでは穴をあける、筋をつけるなど必要に応じて身近なものを用具として使って作る。◇ (5) 草花、木の葉、小石、木片など身近なものに関心をもち、それらにさわたり、並べたりなどする。 (8) おもちゃや積み木などでいろいろな形を作る。◇ (9) 工作しやすい紙類や草の葉などを、ちぎったり、折ったり、切ったりつないだりなどして、作ったもので遊ぶ。	低 (8) 造形活動のごく基本となる色や形や用具・材料の名をおぼえる。 中 (11) 造形活動を通して、基本になる色や形や用具や材料の名をおぼえる。 (10) 木片などに金づちでくぎを打ちこむ。◆ (4) はさみを使って、画用紙や色紙などで簡単な形を切り抜いたり、それをのりで美しくはったりする。 (13) 持ち物の模様や色などに関心をもち、◆ 高 (7) のこぎりやきりなどを使って、ごく簡単な木工品を作る。 (8) 針金、板金などを使って、ごく簡単なものを作る。 (9) 造形活動に必要な用具や材料の名をおぼえ、その使い方に慣れる。	(6) いろいろな色や形をつかって、自由な組み合わせや組み立てをする。◇ (7) 基本的な2, 2の色名をおぼえる。 (6) 基本的な色や形、身近な用具や材料の名をおぼえる。 (9) はさみやのりなどの基本的な用具の使い方になれる。 (12) げんのう、のこぎり、きり、糸のこぎりやペンチなどの使い方がわかり、木や針金などでいろいろなものを作る。 (5) ポスターなどで、知らせたいことをよくわかるように、色や形を使ってあらわす。◇ (6) 色合いの違い、色の寒暖などがわかり、色の組み合わせを考えて表現する。◇ (7) 対称や繰り返しなどの感じがだいたいわかり、それを生かして表現する。◇
中	(3) 鉛筆、クレヨン、パス類、水彩の具などで、ていねいにかいたり、ぬったりする。 (5) 色紙などを使って、簡単な折り紙、はり絵、ちぎり絵などを作る。 (9) 画用紙などで紙版画を作って刷る。 (6) 粘土で球などの簡単な形を作ったりする。 (7) ビーズ通しなどで、色を交互に通す。◆ (8) 自然物や糸・布などで、簡単な模様や飾りを作ったりする。	(1) クレヨン、パス類、絵の具および色紙などを使って、自分のかきたいものをかく。 (2) 紙その他、扱いやすい材料で版を作り、版画にする。 (3) 粘土を使って、自分であらわしたいものを作る。 (5) 包装紙や箱などの身近な材料を使って、自由な表現をする。◇ (7) いろいろな材料を使って、切ったり、曲げたり、つなぎ合わせたりなどして、簡単な家や動物などを作る。◇ (8) 水の流れや風などで動いたり、走ったりする簡単なおもちゃを作る。◇	意欲・態度及び事前事後活動 低 (1) 身近な材料や用具を使って、思ったまま自由に造形的な表現をする。◆ 中 (1) 自由な造形的表現を通して、材料や用具の使用に慣れ、表現の意欲を高める。◆ (2) 造形活動のための準備やあとかたづけをする。◆ (12) 自分たちの作ったもので教室を飾る。◆ 高 (1) 造形活動によって自分の意図したものが表現できる喜びを味わう。◆ (10) 美しい風景や作品に触れる。 (11) 教室の掲示物や飾りなどの配置や配色に関心をもち、教室を美しくしようとする。◆ (12) 共同製作などで相手と協力する。◆ (13) 自分の作品とともに他人の作品もたいていせつにする。◆	(10) 自分の作品について話をする。◇ (10) 友だちの作品を見て話し合う。◇ (4) 行事などのさいに、身のまわりや教室などの飾りを作る。◇ (13) 美しい自然の風景や造形品に関心をもち、
高	(2) 鉛筆、クレヨン、パス類、水彩の具などを必要に応じて使い、自分の意図した表現をする。◆ (3) 画用紙、厚紙、または、糸、布などで簡単なものを作る。 (4) 粘土で動物などの形を作り、色をぬったり、焼いたりする。 (5) ゴム板、リノリウム板などを彫刻刀で彫り、それを使って版画を刷る。 (6) ビーズなどでごく簡単なものを作る。◆ ※理科高 (7) ア ゴムやばねを使ったおもちゃをくふうして作る。	(1) 記憶や想像などに基づいて、絵の主題をきめてかく。◇ (2) かきたいものをよく見てかく。◇ (3) 彫刻刀を使って、ゴム板やリノリウム板などで、版を作り、簡単な版画を作る。 (4) 粘土などを使って、作る物の感じができるように作る。 (8) 粘土で器物など成形し、必要に応じて焼成する。 (9) 風や水の力、ゴムの弾力性などを生かして、動く簡単なおもちゃを作る。◇ (10) 糸、ひも、布などで簡単なものを縫ったり編んだりする。◇ (11) 紙類をおもな材料とし、定規、切り出し小刀などを使って、簡単な家や橋などを作る。◇		

◆は削除された項目、▲は他教科に移動した項目、◇は新設された項目であることを示す。出典 38年指導要領、46年指導要領より作成

和46年低 (6) において「遊びや生活表などで使う○、×の記号の意味がわかる。」となるなど具体的場面の例示がなされるなど、実生活との関連の強く、実用性の高い記述に変更されていた。

音楽や図画工作においても、教科の知識・技能に内容を限定される傾向にありながらも、一方で生活場面や他教科・他領域との関連が見られる項目の新設や記述の変更が見られた。音楽では、中 (1)「場面に応じた音楽の流れているなかで、遊んだり、給食を食べたり、身じたくをしたりする。」のように生活場面に範囲を広げた項目が新設された。図画工作においても、

中 (4)「行事などのさいに、身のまわりや教室などの飾りを作る。」が新設され、行事との密接な関連がもたれた。また、低・中学年において「身近なもの」を材料・用具とするという記述が増加した。

生活科以外の教科で、教科の知識・技能に内容が限定された。しかし、教科の中にも生活と関連の深い分野や内容項目は含まれており、学習した教科的な内容を実践する場面は実際の生活場面であった。46年指導要領解説においても、生活科の「交際」と国語、「金銭」と算数など生活科とその他教科や領域との関連が示され、「指導を展開する場合には、区分された別々の

Table 6 昭和38年と昭和46年の体育の内容項目

昭和38年		昭和46年		昭和38年	昭和46年
体操				水泳	
低	※音楽低(5)イ (1) 担任の指示によって1列に並ぶ。 (2) 1列に並んで歩く。 (3) ア シャがんだり、立ったりする。ウ 両足をそろえてとんだり、片足で立ったりとんだりする。 (3) イ 足を前後、左右に開く。エ 腕を振ったり振り回したりする。 (3) オ 片手をすりあげながら、からだを左右に曲げる。◆カ シャがんで歩いたり、いざって歩いたりする。◆キ 息を大きく吸ったり、吐いたりする。◆ (4) ぶらんこに乗ったり、すべり台ですべったりする。	(1) 合い図で集合する。 (2) 1列に並ぶ。 (3) シャがんだり、立ったり、その場とびをする。 (4) 脚(あし)を前後左右に開いたり、腕を振ったり、回したりする。 (5) 両手、両足を床床についた姿勢で、はったり、歩いたりする。 (6) 身近にある用具や道具を使って、いろいろな遊びをする。 (7) 固定施設や三輪車などを使って、いろいろな遊びをする。		低 (15) 水遊びをする。 中 (19) 助けられて、初歩の水泳をする。 高 (17) 初歩の水泳をする。	(1) シャワー遊びをする。 (2) ひざぐらいの水の中で、いろいろな遊びをする。 (1) ひざぐらいの深さで、腕立ての姿勢で底をはったり、ばた足をしたりする。 (2) 腰ぐらいの深さで、肩まで水の中にはいる。 (3) 顔や頭を水の用にいて、いろいろな遊びをする。 (1) 息を止め、顔を水の中に入れて口から息をはく。 (2) 水の中で目をあける。 (3) 沈み方、浮き方になれる。 (4) 浮いた姿勢から立つ動作をする。 (5) ばた足をする。 (6) 立ち飛び込みをする。◇
	※音楽中(5)イ (1) 1列にまっすぐ並んだり、2列に並んだりする。 (2) 1列や2列に並んで歩く。 (3) オ 腕を前や横や上に、あげたり下げたりする。 (3) ア シャがんだり、背伸びしたりする。ウ 両足または片足で、その場でとんだり、とんで移動する。 (3) カ 片手をすりあげながらからだを左右に曲げる。◆キ 腕を左右に振って首やからだを回す。◆ク いざって歩るとき、腕の力だけで前進する。 (3) ケ 息を大きく吸ったり、吐いたりする。◆ (4) ぶらんこに乗ってひとりでこぐ。 (8) 雲ていやはんと棒を使って遊ぶ。 (18) こども用の自転車に乗る。	(1) 合い図で早く集合する。 (2) 距離をとって1列に並ぶ。 (3) 1列に並んで歩く。 (4) 手、足、上体、下肢を曲げたり、伸ばしたりする。 (5) 押したり、引いたり、ささえたりする。◇ (6) 片足とび、両足とびをする。 (7) おぶって短い距離を歩く。◇ (8) 身近にある用具や道具を使って、遊んだり、運動したりする。 (9) 固定施設や自転車などを使って、みんなでいろいろな遊びをする。		低 (10) ボールをころがしたり、投げたりする。 中 (14) ボールを投げたり、ついたりする。 (22) ころがしドッチボールをする。 高 (16) ボールを投げたり、受けたりする。 (19) 簡易化したベースボールやドッチボールなどをする。	(1) ボールをころがしたり、投げたりする。 (2) 止まっているボールをけったり、ころがってくるボールを止めたりする。◇ (3) ボール送りをする。◇ (1) ボールを投げたり、けったりする。 (2) ころがってくるボールや、相手が投げたボールを避ける。◇ (3) 近い距離でボールを投げたり、受け止めたりする。 (1) トリプルをする。◇ (2) ボールを使ってリレーをする。◇ (3) ボールをけりながら走る。◇ (4) 相手に向かって投げたり、けったりする。 (5) 円形ドッジボール、ラインサッカー、エンドボールをする。
	※音楽高(5)イ (1) 1列に正しく並んだり、2列にまっすぐ並んだりする。 (2) 1列や2列に並んで、正しい姿勢で歩く。 (3) ア ひざを浅く深く曲げたり、伸ばしたりする。足を左右に開閉してとぶ。イ 腕を前・横・上にあげたり、下げたりする。うちそとおよぶ前とうしろに回旋する。エ 体を前後、左右に曲げる。左右に回す。腕立てふくがをする。 (3) ウ 首を前後左右に曲げる。左右に回す。◆オ 大きく息を吸ったり、吐いたりする。◆ (7) 懸垂腕まげを少しする。 (15) なわとびをする。 (18) こども用の自転車に乗る。	(1) 距離、間隔をとって、1～2列で整列する。 (2) 1～2列で正しく歩く。 (3) リズムに合わせて行進する。◇ (4) 上体をそらせたり、体の前後屈、側屈、回旋をする。 (5) その場とびで、大きくとび上がったリ、シャがんだりする。 (6) 前後左右にとんで移動する。 (7) 交互に馬とびをする。◇ (8) 固定施設などを使ったいろいろな運動をする。 (9) 長なわとびをする。 (10) ラジオ体操第1を、示範に従って行なう。◇		高 (16) ボールを投げたり、受けたりする。 (19) 簡易化したベースボールやドッチボールなどをする。	(1) トリプルをする。◇ (2) ボールを使ってリレーをする。◇ (3) ボールをけりながら走る。◇ (4) 相手に向かって投げたり、けったりする。 (5) 円形ドッジボール、ラインサッカー、エンドボールをする。
器械運動				ダンス	
低	(6) 低鉄棒などにぶらさがって遊ぶ。 (5) マット遊びでゆりかごなどをする。	(1) 低鉄棒を使って、いろいろな遊びをする。 (2) 低いとび箱にのったり、おりたり、またがったりする。 (3) マットの上で横や前にころがる。◇		低 (12) 動物や乗り物などのごく簡単な模倣遊びをする。 中 (17) 動物や乗り物などの模倣遊びをする。 (16) かごめかごめなどの簡単な歌を伴う遊びをする。	(1) 歌をとまな遊びをする。 「むすんでひらいて」「おうま」「まっほくくり」など (2) 動植物や乗り物などの模倣をする。 (1) 動植物や乗り物、自然のようすなど模倣遊びをする。 そう、うま、たぬき、あり、ブランコ、ヘリコプター、ボート、風など (2) 歌をとまな遊びなどを模倣したり、自由表現にしたりする。「チューリップ」「ぞうさん」とくものす」「こなやのおじさん」「とけいのうた」など (3) 簡単なフォークダンスをする。「キンダーボール」「タンケルクの鐘」など
	(6) 低鉄棒で足をかけて振ったりする。 (9) とび箱遊びをする。 (5) マット遊びで横回りや前回りをする。 (7) 平均台を渡ったり、平均台の上で簡単な動作をする。	(1) 低鉄棒を使って、斜め懸垂をする。 (2) 低鉄棒を使って、とび上がったリ、足をかけたりする。 (3) とび箱を使って、よじのぼったり、とびおりたりする。 (4) とび箱を使って、踏み越しおりや、またぎ越しおりをする。 (5) マットで、ゆりかごをする。 (6) マットで横まわりや前まわりをする。 (7) 平均台の上を歩く。		高 (21) 簡単なフォークダンスをする。 中 (17) 動物や乗り物などの模倣遊びをする。 (16) かごめかごめなどの簡単な歌を伴う遊びをする。	(1) 歌にあわせて自由表現をする。 「せんろはつづくよどこまでも」「アマリス」「ずいずいずつころはし」など (2) 簡単なフォークダンスをする。 「ダスタフスコール」「エースオブダイヤモンド」など
中	(6) 低鉄棒で足をかけて振ったりする。 (9) とび箱遊びをする。 (5) マット遊びで横回りや前回りをする。 (7) 平均台を渡ったり、平均台の上で簡単な動作をする。	(1) 低鉄棒を使って、斜め懸垂をする。 (2) 低鉄棒を使って、とび上がったリ、足をかけたりする。 (3) とび箱を使って、よじのぼったり、とびおりたりする。 (4) とび箱を使って、踏み越しおりや、またぎ越しおりをする。 (5) マットで、ゆりかごをする。 (6) マットで横まわりや前まわりをする。 (7) 平均台の上を歩く。		高 (21) 簡単なフォークダンスをする。 中 (17) 動物や乗り物などの模倣遊びをする。 (16) かごめかごめなどの簡単な歌を伴う遊びをする。	(1) 歌にあわせて自由表現をする。 「せんろはつづくよどこまでも」「アマリス」「ずいずいずつころはし」など (2) 簡単なフォークダンスをする。 「ダスタフスコール」「エースオブダイヤモンド」など
	(6) 低鉄棒を使って簡単な運動をする。 (8) ごく簡単なとび箱運動をする。 (4) マット運動で連続して横回り、前回りをする。 (5) 平均台運動で、片足で立ったり、簡単な動作をする。	(1) 鉄棒にぶらさがって、体を前後に振る。 (2) 低鉄棒で腕立てとび上がりをして、前まわりをする。 (3) 足ぬきまわりをする。 (4) とび箱で、とび上がりをする。 (5) マットで、連続して横まわりや前まわりをする。 (6) 平均台の上を歩いたり、向きを変えたりする。		高 (21) 簡単なフォークダンスをする。 中 (17) 動物や乗り物などの模倣遊びをする。 (16) かごめかごめなどの簡単な歌を伴う遊びをする。	(1) 歌にあわせて自由表現をする。 「せんろはつづくよどこまでも」「アマリス」「ずいずいずつころはし」など (2) 簡単なフォークダンスをする。 「ダスタフスコール」「エースオブダイヤモンド」など
陸上運動				その他(生活に移動、または削除された昭和38年の内容項目)	
低	(7) コースにそってかける。 (8) かけっこをする。……(約30m) (9) 同じ調子でかけ足を。……(約1分間) (13) 簡単な鬼遊びをする。	(1) まっすぐ走る。 (2) いろいろな鬼遊びをする。 (3) 片足や両足で踏み切つてとぶ。		低 (14) すもう遊びをする。▲生活 中 (21) 片足すもうなどをする。▲生活 中 (23) 綱引きや球入れなどをする。▲生活 高 (22) 綱引きや球入れなどをする。▲生活 低 (16)、(20)～(24)▲生活 低 (17) 病気になったときは、親や先生などの言うことを聞く。◆ 低 (18) いちどにたくさん食べすぎないようにする。◆ 低 (19) よくかんで食べることに慣れる。◆ 中 (24)～(30)▲生活 中 (31) 遊びや運動する場所の小石や危険物を取り除くようにする。◆ 高 (23)、(26)、(27)、(29)、(30)▲生活 高 (24) 暑さ寒さに気をつけるようにする。◆ 高 (25) 疲れたときなどには適当な休養をとるようにする。◆ 高 (28) 食べすぎや寝冷えなどをしないように気をつける。◆ 高 (31) 運動用具の破損に注意し、危険が起こらないようにする。◆	◆は削除された項目、▲は他教科に移動した項目、◇は新設された項目であることを示す。網掛の項目は本稿本文の記述説明参照項目である。出典 38年指導要領、46年指導要領より作成
	(11) 同じ調子でかけあしをする。……(約3分間) (10) かけっこをする。……(約50m～80m) (12) 両足をそろえて立ち幅とびをする。 (13) 片足ふみきりで幅とびをする。 (20) 鬼遊びをする。	(1) 同じ調子でかけ足を。……(約3分間) (2) 全力で短い距離を走る。 (3) 回旋リレーや置き換えリレーなどをする。 (4) 綱、竹、棒などを使って、とんだり走ったりする。◇		低 (16)、(20)～(24)▲生活 低 (17) 病気になったときは、親や先生などの言うことを聞く。◆ 低 (18) いちどにたくさん食べすぎないようにする。◆ 低 (19) よくかんで食べることに慣れる。◆ 中 (24)～(30)▲生活 中 (31) 遊びや運動する場所の小石や危険物を取り除くようにする。◆ 高 (23)、(26)、(27)、(29)、(30)▲生活 高 (24) 暑さ寒さに気をつけるようにする。◆ 高 (25) 疲れたときなどには適当な休養をとるようにする。◆ 高 (28) 食べすぎや寝冷えなどをしないように気をつける。◆ 高 (31) 運動用具の破損に注意し、危険が起こらないようにする。◆	◆は削除された項目、▲は他教科に移動した項目、◇は新設された項目であることを示す。網掛の項目は本稿本文の記述説明参照項目である。出典 38年指導要領、46年指導要領より作成
高	(9) かけっこをする。……(約80m～100m) (10) 皆でそろってかけ足を。……(約5分間) (20) 簡単なリレーをする。 (11) 約1時間歩く。◆ (12) 助走をつけて幅とびをする。 (13) 高とびをする。 (14) スキップ歩きをする。◆	(1) 全力で短い距離を走る。 (2) コースに沿って走る。 (3) 幅広い障害物をとび越える。◇ (4) 物をもったり、かついだりして走る。◇ (5) リレーで、バトンタッチをする。 (6) 持久走をする。 (7) 走り幅とびをする。 (8) 高とびをする。		低 (16)、(20)～(24)▲生活 低 (17) 病気になったときは、親や先生などの言うことを聞く。◆ 低 (18) いちどにたくさん食べすぎないようにする。◆ 低 (19) よくかんで食べることに慣れる。◆ 中 (24)～(30)▲生活 中 (31) 遊びや運動する場所の小石や危険物を取り除くようにする。◆ 高 (23)、(26)、(27)、(29)、(30)▲生活 高 (24) 暑さ寒さに気をつけるようにする。◆ 高 (25) 疲れたときなどには適当な休養をとるようにする。◆ 高 (28) 食べすぎや寝冷えなどをしないように気をつける。◆ 高 (31) 運動用具の破損に注意し、危険が起こらないようにする。◆	◆は削除された項目、▲は他教科に移動した項目、◇は新設された項目であることを示す。網掛の項目は本稿本文の記述説明参照項目である。出典 38年指導要領、46年指導要領より作成
	(9) かけっこをする。……(約80m～100m) (10) 皆でそろってかけ足を。……(約5分間) (20) 簡単なリレーをする。 (11) 約1時間歩く。◆ (12) 助走をつけて幅とびをする。 (13) 高とびをする。 (14) スキップ歩きをする。◆	(1) 全力で短い距離を走る。 (2) コースに沿って走る。 (3) 幅広い障害物をとび越える。◇ (4) 物をもったり、かついだりして走る。◇ (5) リレーで、バトンタッチをする。 (6) 持久走をする。 (7) 走り幅とびをする。 (8) 高とびをする。		低 (16)、(20)～(24)▲生活 低 (17) 病気になったときは、親や先生などの言うことを聞く。◆ 低 (18) いちどにたくさん食べすぎないようにする。◆ 低 (19) よくかんで食べることに慣れる。◆ 中 (24)～(30)▲生活 中 (31) 遊びや運動する場所の小石や危険物を取り除くようにする。◆ 高 (23)、(26)、(27)、(29)、(30)▲生活 高 (24) 暑さ寒さに気をつけるようにする。◆ 高 (25) 疲れたときなどには適当な休養をとるようにする。◆ 高 (28) 食べすぎや寝冷えなどをしないように気をつける。◆ 高 (31) 運動用具の破損に注意し、危険が起こらないようにする。◆	◆は削除された項目、▲は他教科に移動した項目、◇は新設された項目であることを示す。網掛の項目は本稿本文の記述説明参照項目である。出典 38年指導要領、46年指導要領より作成

活動としてではなく、1つの活動として児童に経験させる」ことが留意点として挙げられていた（文部省〔1974〕56）。そもそも生活科の新設の経緯として、児童生徒の障害の重度化から「既存の教科による以外の様式で、教育内容を組織することの必要性」が高まったことが挙げられていた（文部省〔1974〕50）ように、発達段階の低い児童生徒であるほど教科と生活とを区別した教育内容の分類は、困難であったことが考えられる。

IV. おわりに

38年指導要領は、領域案など生活経験主義に基づく教育内容を便宜的に教科別に示したものである。そのため、教科の内容には、その教科の知識・技能に関する内容と、その内容に関連した、もしくは便宜的に教科に組み込まれた生活経験が含まれていた。46年指導要領において、後者は生活科の内容として整理され、前者が教科の内容として残った。昭和38年と比較し、生活科の内容項目は、身辺・家庭・学校・社会生活における生活経験を網羅するように項目が充実されていた。一方で、その他教科の内容項目は、その教科の知識・技能に内容が限定される傾向が見られた。

しかし、名古屋（2004）が昭和46年の第1次改訂において強調されたと指摘した教育課程を2重構造で理解する見解が重要であることから、生活科とその他の教科が完全に独立しているわけではなく、実践に移すためには、生活科とその他の教科との関連が考慮されなければならない。指導の一例として、「電話のけいこ」という単元の学習内容において、国語の「話すこと」の「簡単に伝言する」、「はっきり話す」、「正しい発音で話す」、「ていねいなことばで話す」の内容項目を挙げている。それは、「先生、友達などと話し合う」、「簡単な取りつきができる」（交際）など生活科との関連し、日常の伝言の仕方の学習やあそびに発展すること、「消防署に知らせる」ということから、生活科の「社会のしくみ」の内容との関連を指摘してい

る。その他にも、体育における運動用具の出し入れ、整頓、清潔、図画工作における自然物を使った造形などの活動について、生活科との関連を指摘している。他の領域については、「係活動を決める、分担する、行事に参加する」は特別活動と生活科の「役割」、「遠足の時など、ごみの始末をする。公園や遊園地などでのきまり、約束を守る。自他の持ち物の区別」は道徳と生活科の「きまり」との関連を指摘している（秋山〔1974〕24 - 27）。

一方、西（1975）や田中（1982）は、生活科が生徒指導などにおいて指導される内容を多く含むことから、教科として異質であることを指摘している。しかし、生活科が既存の教科による教育内容の分類の困難さへの対応として新設された経緯から、生活科を教科として否定することは可能であるかは疑問である。生活科が教科として位置づくものかということは本稿では触れないが、本研究における内容項目の比較からも、生活科は教科指導とその他の生徒指導や道徳などの教科外課程で身につけるべき力が分離されず、一体となった形を想定して教育内容が分類されていることが考えられる。またその他の教科も指導方法においては他教科・領域と合わせて指導することが想定されており、単に教科別指導のみではなく、教科外課程における指導も含まれると考えられる。このことから、「精薄教科」がそもそも通常教育の教科や教科外課程の教育内容と比較しどのような性格を持ったものであったのか検討が必要である。

本研究では、38年と46年指導要領の内容項目の変化を整理し、生活科の設定により「精薄教科」の内容がどのように分類されたかを検討した。本研究では、一事例の紹介にとどまったが、この「生活科」の新設が教育現場でどのように反映されたか、その成果と課題について、現場の実践や議論を整理することは今後の課題である。

付記：本稿は科学研究費補助金による研究成果の一部である。

引用文献

- 秋山一乗（1974）領域別・教科別学習の中での指導．精神薄弱児研究，187，24 - 27．
- 藤原志帆（2004）知的障害養護学校音楽科の教育課程の変遷—学習指導要領および同解説の分析を通して—．広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要，14，77 - 89．
- 川喜田二郎（1967）発想法．中央公論社．
- 国立特殊教育研究所（2006）生活単元学習を実践する教師のためのガイドブック～「これまで」、そして「これから」～．国立特殊教育総合研究所．
- 小出進（2001）養護学校（知的障害）における教科「生活科」設定の経緯．植草短期大学紀要，2，15 - 29．
- 文部省（1963）養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編昭和37年度版．教育図書．
- 文部省（1966）養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編解説．東山書房．
- 文部省（1970）盲学校、聾学校および養護学校の教育課程の改善について（答申）．精神薄弱児研究，151，9 - 15．
- 文部省（1971）養護学校（精神薄弱教育）小学部・中学部学習指導要領．慶応通信．
- 文部省（1971）養護学校（精神薄弱教育）小学部・中学部学習指導要領資料．慶応通信．
- 文部省（1974）養護学校（精神薄弱教育）小学部・中学部学習指導要領解説．東山書房．
- 名古屋恒彦（1997）「養護学校小学部・中学部学習指導要領精神薄弱教育編」制定をめぐる動向の教育実践への影響．発達障害研究，19(2)，158 - 167．
- 名古屋恒彦（2004）「領域・教科を合わせた指導」の概念の成立—養護学校学習指導要領第1次改訂に着目して．発達障害研究，26(2)，116 - 127．
- 西信高（1975）「生活科」における「精神薄弱児」教育観と教科概念．島根大学教育学部紀要（教育科学），9，125 - 130．
- 太田正己（2004）生活単元学習に関する条件の変容の研究—知的障害養護学校学習指導要領解説における分析から—．発達障害研究，28(3)，224 - 233．
- 田中良三（1982）養護学校（精神薄弱教育）学習指導要領における教科の位置．障害者問題研究，29，78 - 83．

—— 2009.8.31 受稿、2009.12.25 受理 ——

Transition of Contents of Subjects due to Introduction of “Seikatsu-ka” (Life and Practical Skills) for Mental Retardation : Comparing Curriculum for Mental Retardation in 1971 with in 1963

Yasuhiro YAMADA and Hiroki YONEDA

The purpose of this study was to compare the content of the subjects that constituted the curriculum for students with Mental Retardation in 1971 and 1963. It was found that “Seikatsu-ka” (Life and Practical Skills) as a subject in 1971 was structured mainly from the contents of the “Social Studies”, “Science” and “Home Economics” subjects that formed the curriculum in 1963. However, the range of contents related to daily living was more extensive than that covered in the 1963 curriculum. In subjects such as “Japanese” and “Mathematics”, in 1971, there was less content that was related to daily living, while content related to academic knowledge and skills remained a part of the curriculum. This tendency was observed in “Music”, “Drawing and Manual Arts” and “Physical Education” as well. In other words, activities that involved manners/safety/morals were eliminated from the curriculum. In these subjects, however, contents that were related to daily living were apparent, which means that the contents in “Seikatsu-ka” and other subjects were closely related to each other. In concluding, to understand the curriculum for students with mental retardation, we must appreciate, both, the points of view that “classify educational content into subjects” and the forms of teaching such as “Instruction by life-experiences” and “Instruction for Living skills”.

Key Words: “Seikatsu-ka” (Life and Practical Skills), curriculum, Mental Retardation